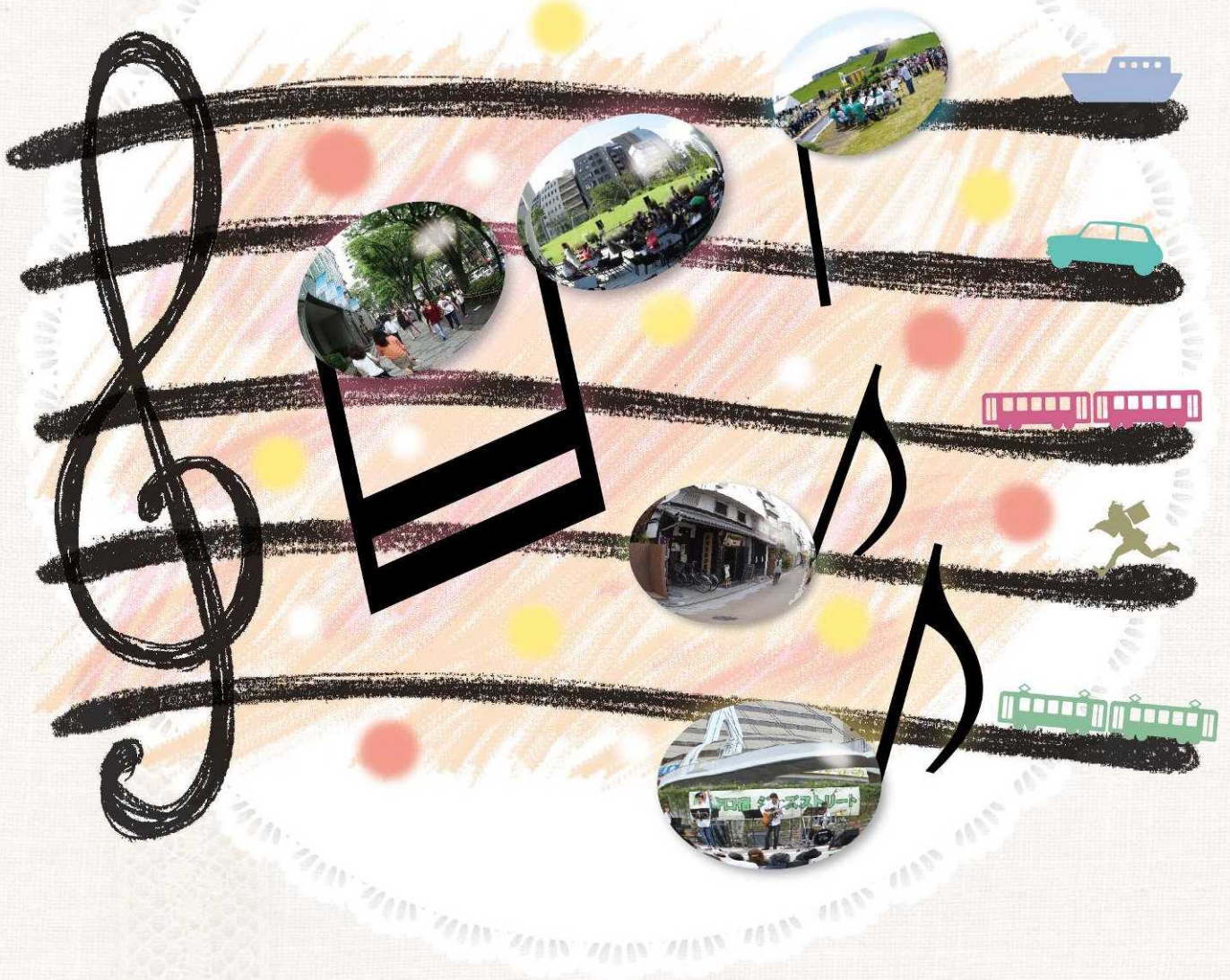


守口都市核周辺における
将来都市ビジョン

歴史・文化と
賑わい・交流の
ミルフィーユ



目 次

1. はじめに	1
2. 課題整理	4
3. まちの将来像とコンセプトイメージ	6
4. ゾーニング	14
5. まちづくりの方針	21
6. まちづくり戦略	25
7. ビジョン実現に向けて	38
〈資料編〉	
1 上位計画	資料-1
2 これまでの歩み	資料- 4
3 アンケート調査結果	資料- 6
4 各種関係団体等意見交換結果	資料- 10
5 旧市役所跡地周辺導入機能イメージ（案）	資料- 12



1. はじめに

1-1 ビジョン策定の趣旨

本市では、第五次守口市総合基本計画（平成 23 年 3 月）及び守口市都市計画マスタープラン（平成 24 年 9 月）において、行政・文化、商業・業務などの都市機能が高度に集積し、道路・鉄道などの都市基盤が整備された都市の骨格を形成する拠点として、「守口都市核」と「大日都市核」の 2 つの都市核を位置付けています。

守口都市核においては、旧守口村が江戸期に東海道 57 番目の宿場に指定されるなど、大阪と京都を結ぶ交通の要所として、古くから生活が営まれており、また、高度経済成長期には、急激な市街化に対応し、公共施設や都市基盤の整備、さらに、京阪本線の連立立体交差化や駅前再開発事業などを進め、早くから、都市機能が集積する市の拠点を形成しておりました。

その一方、現在は、駅前再開発から約 30 年が経過し、施設の老朽化や公共施設再編に伴う跡地の発生など様々な問題に直面しており、それらに対応しつつ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）」にも掲げております、若い世代の満足度向上や子育て環境の充実化など、「住んでみたい、住み続けたいまち」としてのレベルアップを図り、様々な世代の方々が暮らしやすく、魅力を感じるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

そこで、今後 20～30 年後の将来を見据え、守口の新しい都市イメージの創出につながるような魅力、賑わい、交流が溢れる守口都市核を目指していくための指針として、また、地域、事業者、行政など多様な主体が一緒になってまちづくりに取り組んでいくためのきっかけとして、将来都市ビジョンを策定するものです。



1-2 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、本市の上位計画を踏まえつつも、守口都市核周辺における中長期的なビジョンとして、位置づけ、作成します。

なお、平成 29 年 3 月策定予定の「守口市立地適正化計画」とも密接に関係させていただきます。

第五次守口市総合基本計画（H23.3）

守口市都市計画マスタープラン（H24.9）

守口市立地適正化計画（H29.3 策定予定）

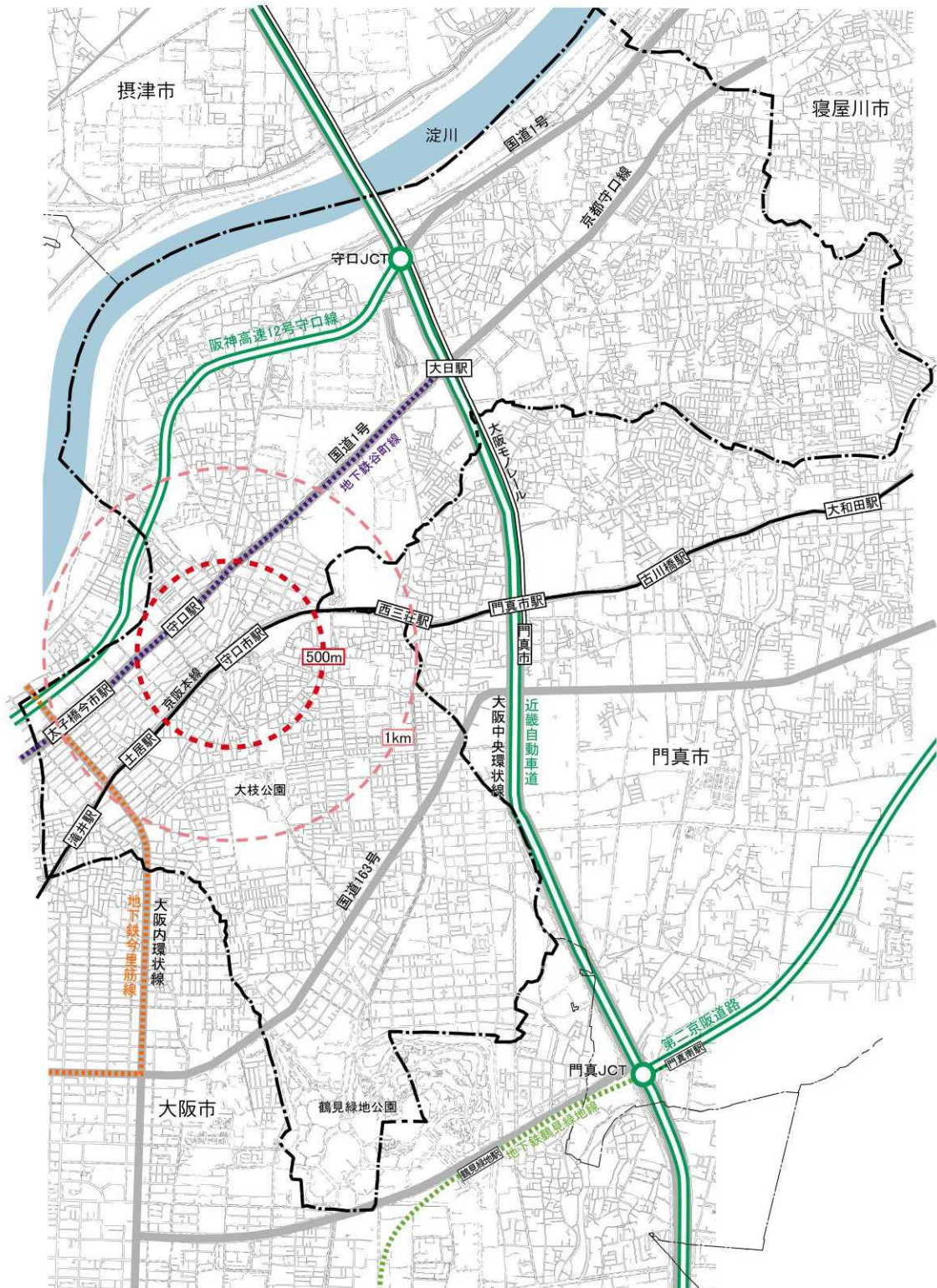
守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H28.3）



守口都市核周辺における将来都市ビジョン

1-3 守口都市核周辺の位置

本ビジョンで対象とする「守口都市核周辺」は、京阪守口市駅を中心とする概ね半径500m圏内の範囲及びその周辺で、その概ねの範囲を以下に示します。



2. 課題整理

守口都市核周辺に関わる課題について、以下のように整理できます。

課題1 玄関口に相応しい都市基盤整備と都市機能導入による都市イメージの向上

守口都市核周辺は、早くから鉄道や道路網が発達し、行政・文化・商業施設が集積するなど、便利なまちという印象がある一方で、緑やオープンスペースが少ないこともあり、人が憩えて快適に過ごせる空間が不十分なところがあります。そこで、これから整備をスタートさせる都市計画道路や公共施設跡地の整備活用之际には、人中心という視点を大切に、市の玄関口として相応しい佇まいや新しい都市イメージの創出に向けた取り組みが必要です。

1. 市の玄関口として相応しい都市基盤整備
2. 新しい都市イメージを創出する魅力的な都市機能の導入
3. 公共施設用地等の積極的な活用
4. 駅前やまちなかの緑・オープンスペースの充実化
5. 都市景観、玄関口の顔づくり

課題2 賑わいと交流・まちの回遊性、都市活力の向上

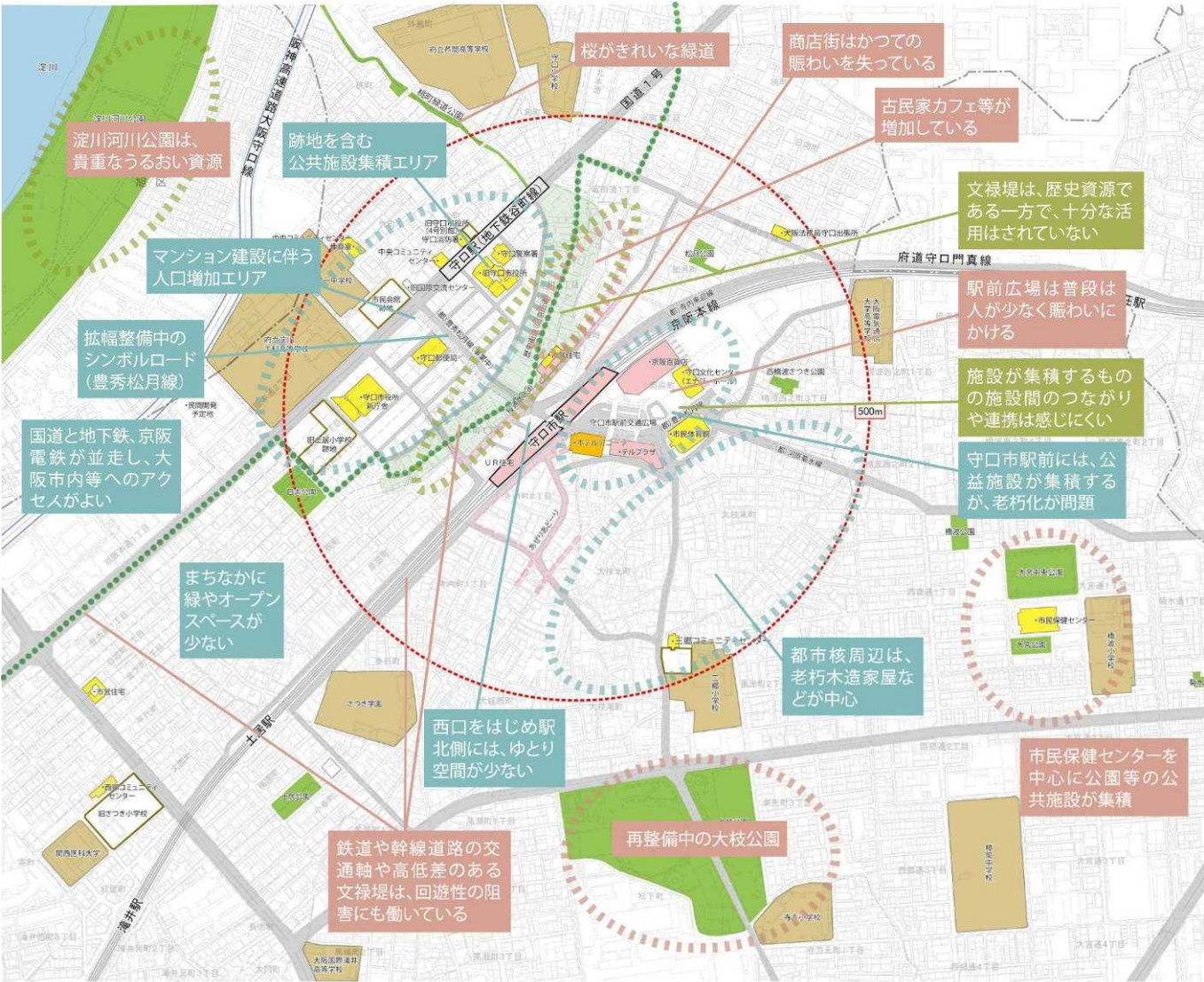
守口都市核周辺は、駅前広場では多数のイベントが開催されており、その際は多くの人で賑わいますが、普段の駅前は人通りが少なく寂しい印象です。また、駅前には公共公益施設が集積し、様々な方が利用しておりますが、施設をつなぐ要素が少ないこともあり、まち全体としての賑わいや回遊性が不足しています。そこで、オープンスペースを活用し、日常的な賑わいを創出するとともに、歩行者空間のネットワーク化などにより回遊性を高め、賑わいをつなぎ、交流を促進することで、都市活力を高めていく取り組みが必要です。

1. 日常を含めた駅前の賑わい創出
2. まちなかの憩い空間、滞留空間、賑わい空間の創出
3. 歩いて楽しい歩行空間のネットワーク化
4. 都市核周辺エリアとの連携強化

課題3 地域資源の活用と発信、多様な主体と連携した取組み推進による都市魅力の向上

守口都市核周辺には、歴史的資源である「文禄堤」やうるおい資源である「淀川河川公園」などがありますが、その整備活用が十分でないことなどから、魅力的な資源であることが十分に認識されていない状況にあります。そこで、「守口の個性」を活かしながらイメージアップを図り、資源を体験する場を創出するとともに、多様な主体と連携しながら持続的に都市魅力を向上させ、発信していく取り組みが必要です。

1. 地域資源の整備活用によるまちの魅力向上
2. 多様な媒体を活用したまちの魅力や情報発信の促進
3. 施設間の連携促進や地域と一体となった継続的な取組み推進



都市機能が集積する守口市駅前



京阪百貨店



新庁舎



都市計画道路豊秀松月線



淀川



文禄堤上の京街道

3. まちの将来像とコンセプトイメージ

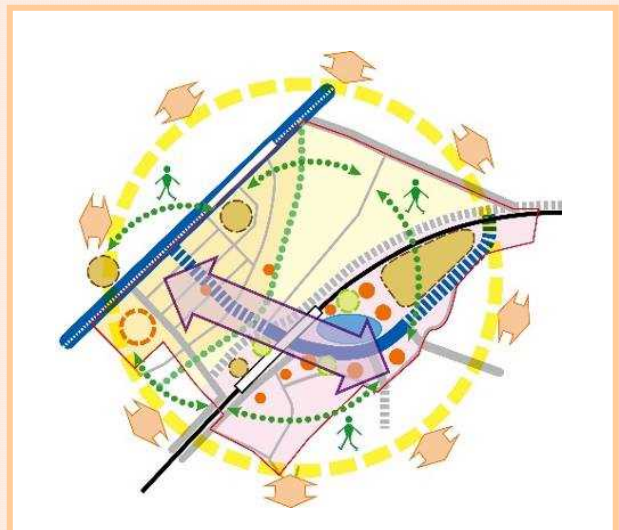
課題等を踏まえ、守口都市核周辺のまちの将来像を以下のように設定します。なお、そのコンセプトイメージは次ページに示すとおりです。

また、その将来像及びコンセプトイメージに基づく、「守口の新しいライフスタイル・シーン」をP.8～13に示します。

■まちの将来像

新しい都市イメージにつながる 日常の賑わい・交流のある守口都市核づくり ～人と施設 施設とまちをつなぎ、周辺に拡がる 新しい守口都市核～

- ①守口都市核周辺の新しい都市イメージを創出すべく、市の玄関口としての佇まいや風格をつくります。
- ②だれもが「使いやすい」空間の整備活用を促進し、各々が楽しめ、憩え、集え、通いたいと思える場所をつくります。
- ③地域の特性を活かし、親しみやすい“ヒューマンスケール”の賑わいや交流のあるまちづくりを目指します。
- ④地域資源を活用し、守口の個性を育て、訪れた人が魅力を体験でき、住む人が愛着を感じられるまちを目指します。
- ⑤様々な人との交流が自然と発生し、単体では生まれない様々な価値が体験できるような都市ならではの魅力的空間を創出します。
- ⑥各施設での賑わいや活動を拡げ、それらをつなぐことで、まち全体として、さらなる賑わいや人の流れ（回遊性）をつくり、そして、それをさらに拡げ、周辺、ひいては市域全体に波及させます。



■コンセプトイメージ

歴史・文化 と 賑わい・交流 の “ミルフィーユ” ～もりぐち 重奏（重層）都市構想～

守口都市核周辺は、文祿堤（京街道）、国道1号、京阪本線、地下鉄などの新旧（歴史・文化）の動線が行き交い、その中に、時代の変遷とともに、公共施設や都市基盤の整備、駅前再開発などが次々と進み、さらに、今後、シンボルロードが整備され、旧市役所跡地や市民会館跡地などが活用されていきます。

すなわち、淀川を含め、文祿堤、京阪電鉄、国道1号、地下鉄など、これまで重層的に築きあげてきた、いわば、

「守口の歴史・文化の層の中に、新しい交流・賑わいの具（コンテンツ）を 挟み込んでいく…」

本ビジョンでは、そんなイメージを、『ミルフィーユ』に見立てて、都市核周辺のまちづくりイメージを共有し、歴史・文化の層と、新しい交流・賑わいの要素が折り重なることで、さらなる魅力を生み出していきます。

今後は、こうした、いわばミルフィーユの要素（コンテンツ）にさらに磨きをかけ、それぞれを重層的に関連させながら、魅力的な『守口の新しいライフスタイル像』を次々に生み出し、周辺に拡げていきます。



守口の新しいライフスタイル

シーン 1

交流 Communication

●家族や仲間と交流する

- 家族や仲間と集まって、
買い物したり、食事をしたり、
いつものように、守ロライフを満喫します。



●好きな人とデートする

- オシャレなお店を探したり、
カフェに立ち寄り話したり、
歩いて楽しいまちなかで、2人の時間を楽しみます。



●知らない人とも交流する

- いつもどこかでイベントが、
あちらこちらで開かれて、知らずと周りに誘われて、
気付けば自分も参加者です。



守口の新しいライフスタイル

シーン 2

利便

 Convenience

●何でもそろって買い物にも便利

- ・百貨店やスーパーなど
買い物に便利な店舗がたくさんあり、
便利で快適な「都心居住」を楽しめます。



●子育て支援施設が身近に利用できる

- ・子育て支援施設も充実し、
安心して子どもを預けることができ、子育て世代も
安心して仕事をしたり、お出かけしたりもできます。



●医療福祉施設も充実し便利で安心

- ・病院や介護施設なども充実し、
歩きやすい道も整備され、移動手段も確保され、
アクセスもしやすく、誰でも安心して暮らせます。



守口の新しいライフスタイル

シーン 3

憩い Comfort

●まちなかの休憩スポットで憩う

- まちなかには、ちょっとした休憩スポットがたくさんあり、座ったり、休んだり、しゃべったり、そんな憩いの空間には、自然と人が集まって、時間も忘れて語らいます。



●オシャレで快適シンボルロードで憩う

- オシャレなお店が並ぶストリートは、きれいに歩道が整備され、緑も多く快適な、“都会”の雰囲気を楽しめます。



●公園緑地で憩う

- 周辺には、淀川河川公園や大枝公園など大きな公園もあります。スポーツをするもよし、のんびりするのもよしで、家族や仲間と思い思いに過ごせます。



活動 Culture activity

●まちなかでみんなで楽しく活動する

- ・駅前広場はもちろん、まちかどでも歌ったり、お店を出したり、いろんな人が連携協力することで、楽しい活動がたくさん生まれます。そこには、自然と人が集まります。



●施設を利用して活動する

- ・ホールや体育館、コミュニティセンターを利用して、“晴れの舞台”に立って、多くのギャラリーを集め、自分たちの活動を楽しんだり、発表したりします。



●歴史文化と触れ合いながら活動する

- ・堤を登ると、古いお家、オシャレなカフェが点在し、落ち着いた風景に出会えます。まちを訪れた人も、住む人もそれぞれに、歴史文化と触れ合います。





新しいライフスタイルの例①

駅前に暮らし始めた若い子育て世帯の1日

時間	場所	活動	イメージ
7:00	自宅	朝起きて、カーテンを開けると川の流れて見えて、淀川が近いことに気づく。	
8:30	自宅	パパ、ママ、娘で3人そろって出発。 パパは、自転車で娘を保育所まで送って、梅田の職場へ出勤。ママは駅前の職場へ徒歩で出勤	
12:00	駅前	お昼は、職場の友人と駅前でランチタイム。	
17:00	駅周辺	ママは娘のお迎えに。ペットとお散歩中のご近所さんに挨拶する。	
17:30	駅前	2人で百貨店に寄って、パパの誕生日プレゼントのネクタイを買う。	
18:00	駅周辺	パパ、ママ、娘が合流し、今日は近くのイタリアンでピッツアを食べる。 お店の人みんなでパパの誕生日をお祝いする。	
20:00	まちなか	歩道が整備され、家族3人でも歩きやすく快適。 まちかどでプチライブに遭遇し、思わず一緒に歌ってしまう。	
21:00	自宅	便利で快適、楽しみと交流がある都市ならではの暮らしを満喫し、3人揃って帰宅する。	



新しいライフスタイルの例②

短期出張で守口に滞在したサラリーマンの休日

時間	場所	活動	イメージ
10:00	ホテル	朝賑やかなかけ声で目が覚めると、駅前で盛大にイベントが開催されていて驚く。	
12:00	駅周辺	ホテルに、百貨店、地元のお店と、守口は食べるところがたくさんあって、いつも迷ってしまいます。	
13:30	駅周辺	食後の運動もかねてレンタサイクルを借りて、もりぐちを散策	
14:00	文禄堤沿い	堤を上ると、落ち着いたまちなみが現れる。ホテルで見かけた外国人観光客がマップをもってまちを歩いていたので、挨拶をする。	
14:30	文禄堤沿い	沿道にはおしゃれなカフェもあり、すぐに休憩をしよう。お店の人にきくと、守口が東海道57番目の宿場だと聞き、情緒を感じる。	
15:30	緑道公園	幹線道路を越えると桜のきれいな並木道が現れ、つい引き込まれると自然と大きな川までたどりつく。	
18:00	駅前	駅前に戻ると、ホールでは地元学校が吹奏楽の演奏会をしているようだ。	
19:00	ホテル	夕食のため、まちに繰り出すと魅力的な飲み屋をたくさん発見、ついつい3軒もいってしまい、帰るともう朝方。明日も休みでよかった。明日は京阪電車で京都観光にいこうかな・・・	

4. ゾーニング

前頁で検討したまちの将来像を実現させていくべく、「ゾーニング」を以下のとおり定めます。

1 新都市生活創出ゾーン

市の中心部として、様々な世代や対象に向け、守口のこれからの新しいライフスタイルを創出していくための機能導入を充実させていくゾーン

2 賑わい交流ゾーン

市の玄関口として、今後もさらなる賑わいや交流を生み出していくゾーン

3 魅力界限ゾーン

住む人にとっても訪れる人にとっても、界限性がある「親しみ」があり、魅力的な商業機能中心のゾーン

4 生活ゾーン

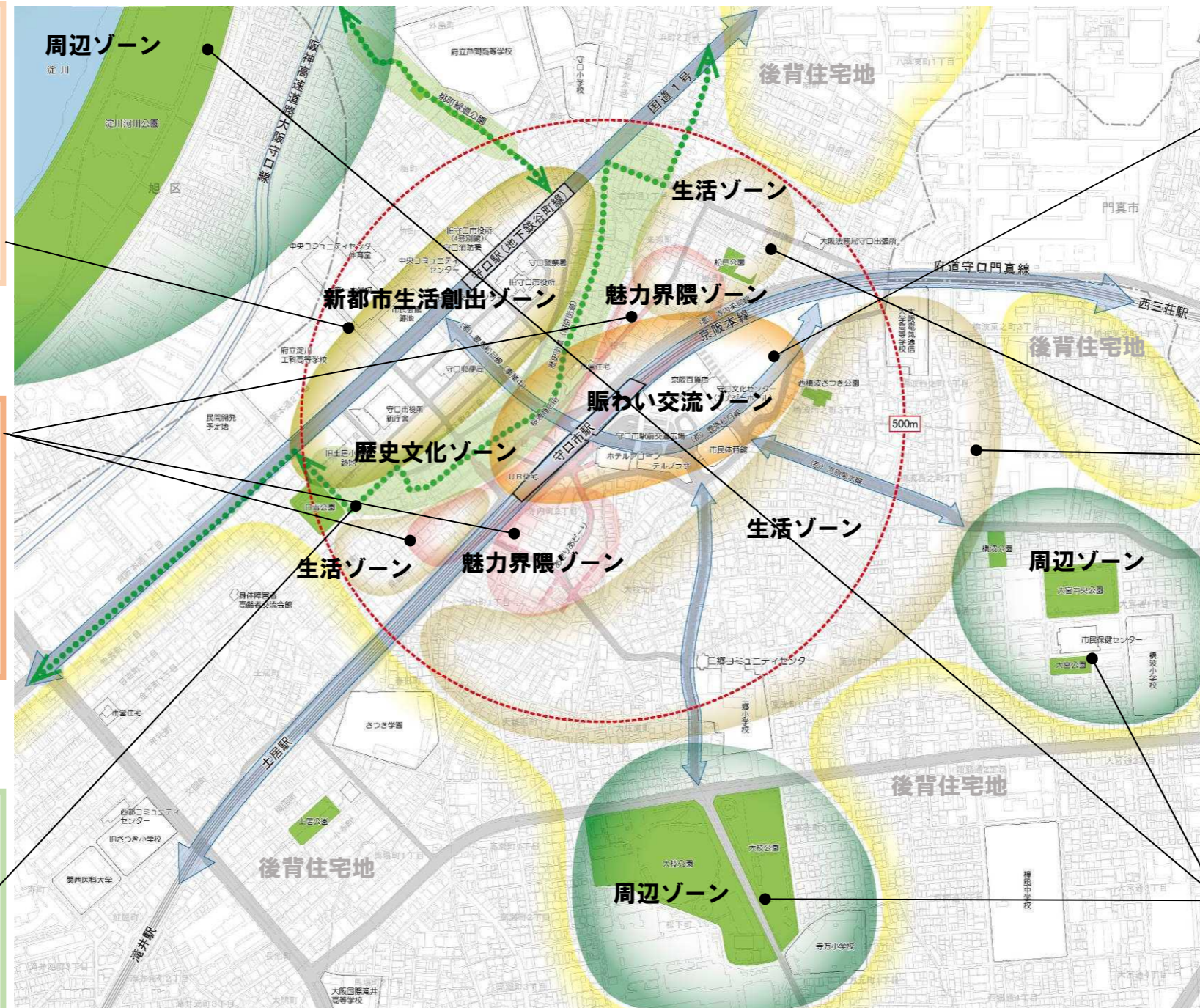
戸建住宅や共同住宅などが立ち並び、それぞれの環境に合わせた居住機能を中心としたゾーン

5 歴史文化ゾーン

京街道沿いの一体的なまちなみ形成に取り組みながら、個性ある店舗や施設の立地を誘導していくなど、「守口の個性」を継承し、新たに創出していくゾーン

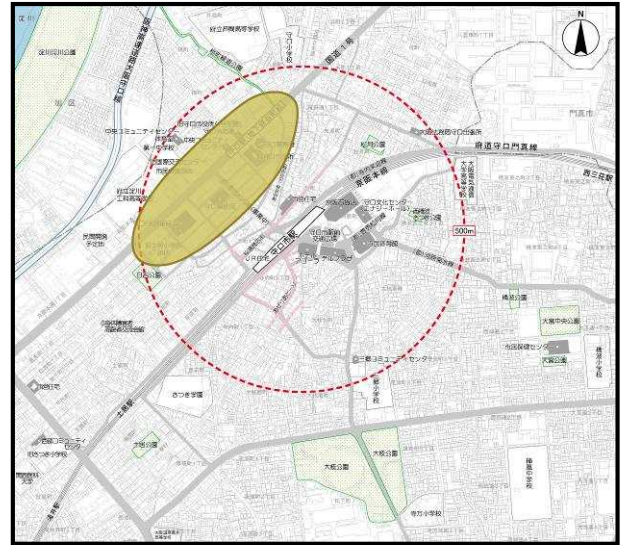
6 周辺ゾーン

- ・ 淀川河川公園とその周辺
- ・ 大枝公園とその周辺
- ・ 市民保健センターとその周辺



1 新都市生活創出ゾーン

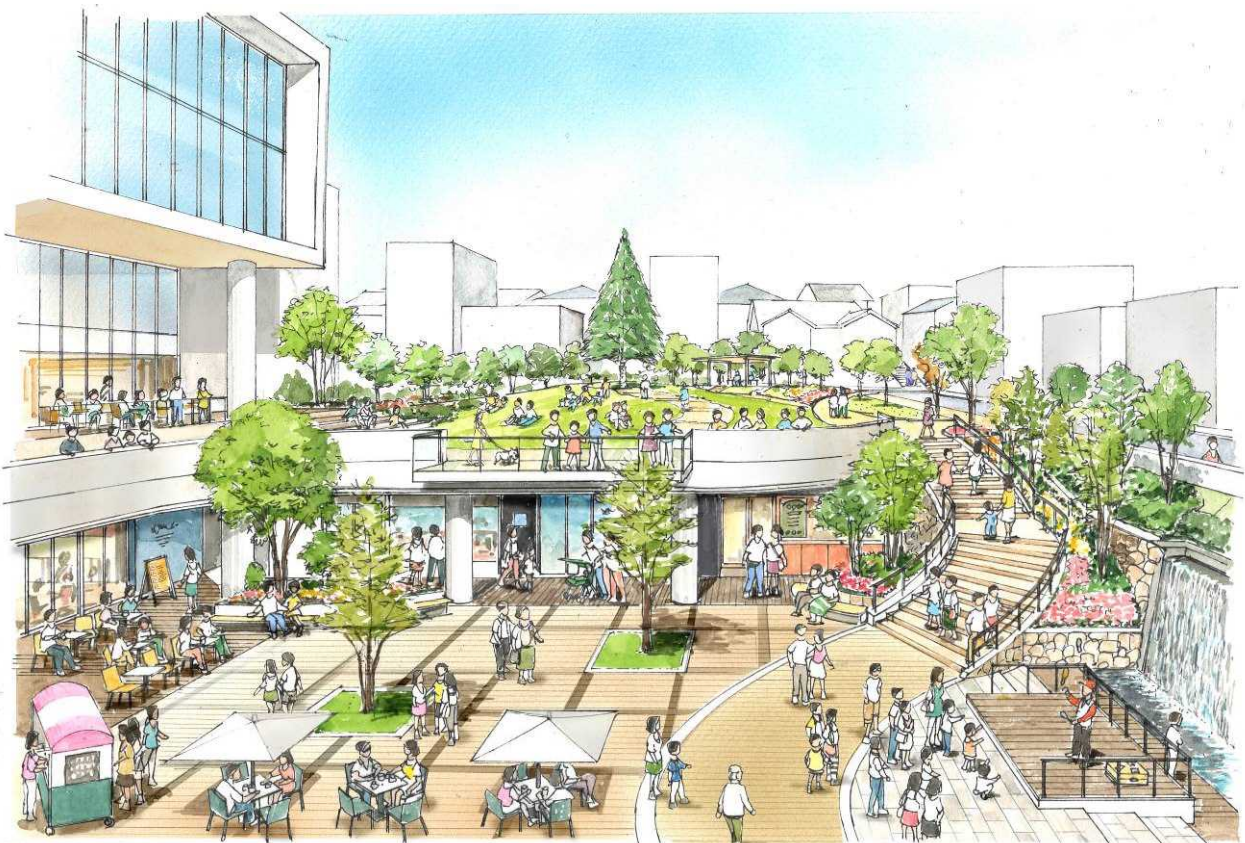
市庁舎をはじめとする多くの公共施設が集積しているエリアについては、市の中心部として、様々な世代や対象に向け、これからの守口の「新しいライフスタイル」を創出していくためのゾーンとします。



●方向性

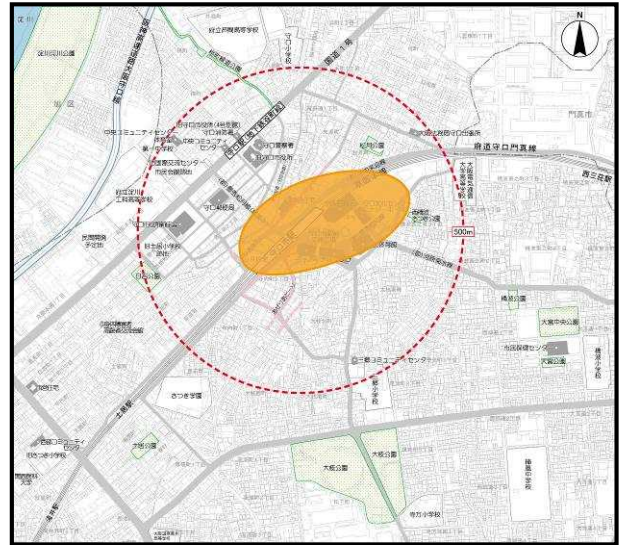
新都市生活創出ゾーンは、公共公益施設が集積するシビックゾーン的な機能も担っており、その特性を活かしながら、今後も都市核の中心部として、守口の新しい都市イメージをつくりあげていく重要な拠点となります。

また、公共施設再編等に伴い発生した跡地を有効活用し、これからの守口の「新しいライフスタイル」を創出するような魅力的な都市機能を誘導していきます。



2 賑わい交流ゾーン

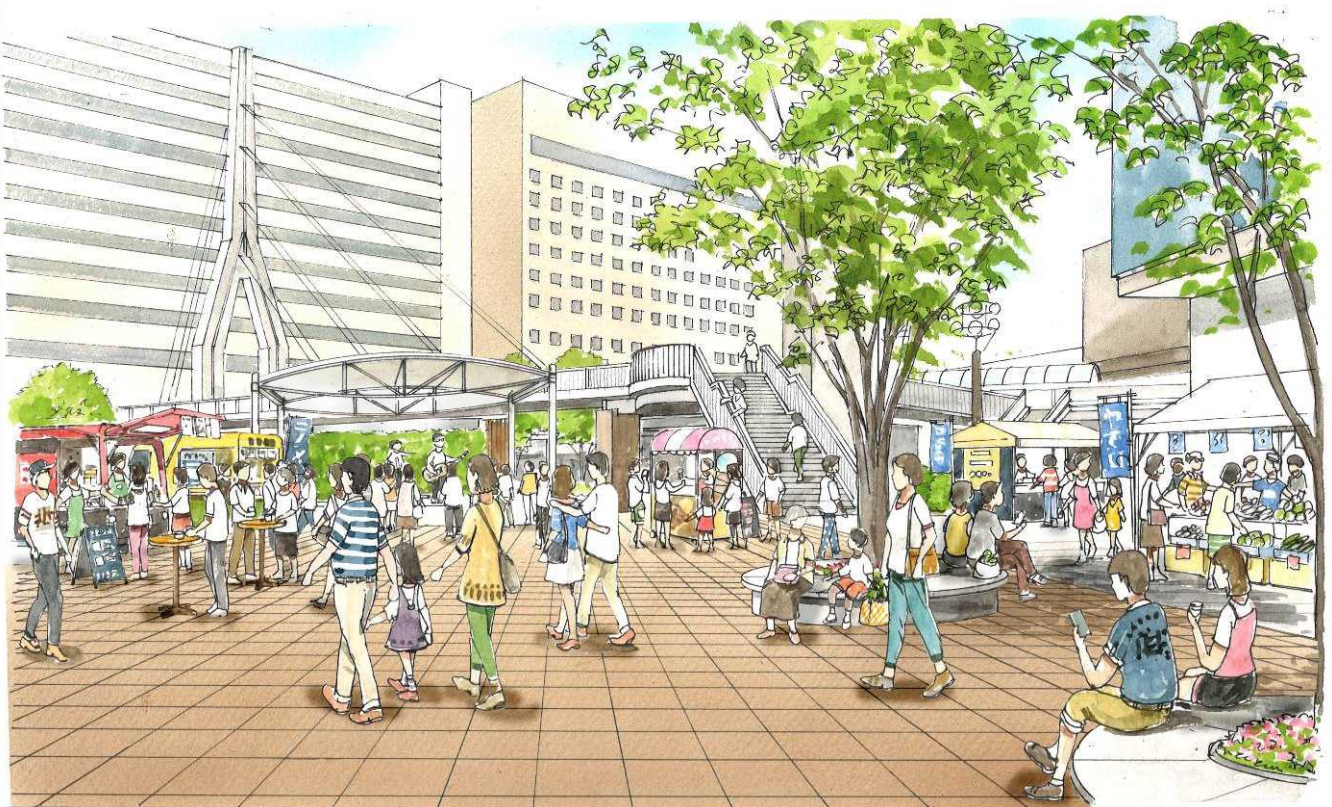
百貨店やホテル、文化センターや体育館、駅前広場などの多数の施設が存在するエリアについては、市の玄関口として、今後もさらなる賑わいや交流を生み出していくゾーンとします。



●方向性

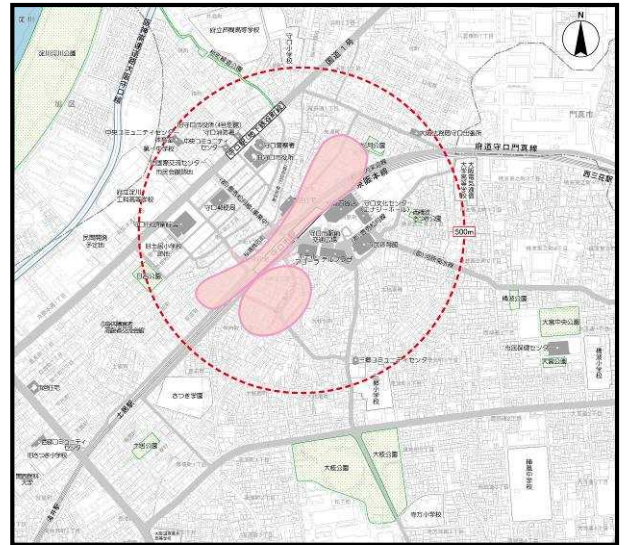
賑わい交流ゾーンは、まさに市の「玄関口」であり、来街者にとっては、最初に守口市の印象を与える非常な重要な立地となります。

「玄関口」にふさわしい「まちの佇まい」をつくるとともに、ホール機能をはじめとする賑わい・交流の核となる施設を誘導することで、今後もさらなる賑わいや交流を生み出していきます。



3 魅力界限ゾーン

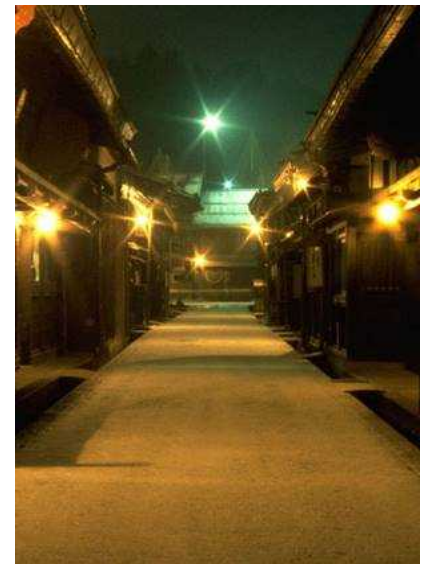
商店街をはじめとする地域密着型の商業機能が集積するエリアは、市民や来街者にとって界限性がある「親しみ」があり、魅力的な商業機能中心のゾーンとします。



●方向性

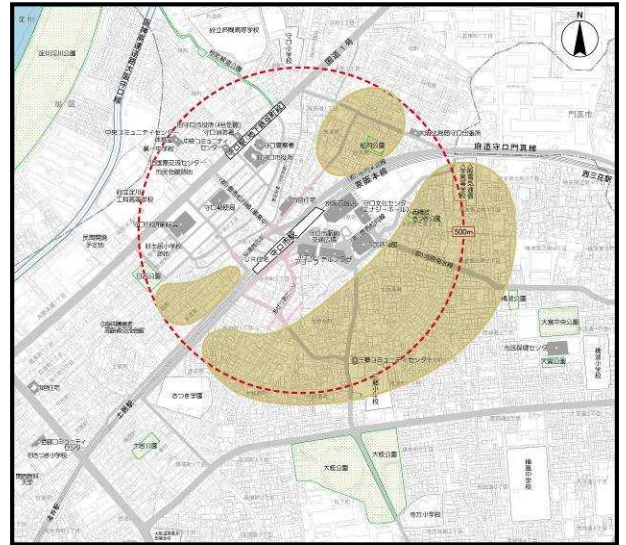
魅力界限ゾーンは、「賑わい交流ゾーン」と周辺ゾーンとの歩行者動線をつなぎ連続させていく重要なエリアを担っています。

また、現在、地域密着型で「守口らしさ」が感じられる魅力的な店舗などが増えてきており、今後も、こうした魅力をさらに向上させていくべく、歩きやすい歩行者空間をつくっていくとともに、立地特性にあった新しい魅力店舗を誘導し、まちの回遊性を高めていきます。



4 生活ゾーン

戸建住宅や共同住宅などが立ち並ぶ、都市核周辺のエリアについては、それぞれの環境に合わせた居住機能を中心としたゾーンとします。



●方向性

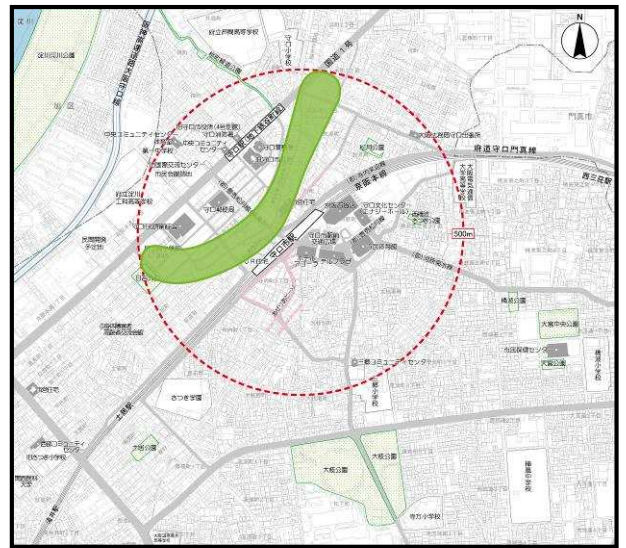
生活ゾーンは、都市核周辺、ひいてはその后背の住宅地であり、今後の「定住促進」を支えていくエリアですが、箇所によっては、老朽化した建物の更新やそれに併せた生活道路の整備などが課題となっています。

今後は、将来の建物の更新に合わせ、多世代が定住できる魅力ある住宅市街地の形成を図っていきます。



5 歴史文化ゾーン

文禄堤（京街道）を中心としたエリアについては、京街道沿いの一体的なまちなみ形成に取り組みながら、個性ある店舗や施設の立地を誘導していくなど、「守口の個性」を継承し、新たに創出していくゾーンとします。



●方向性

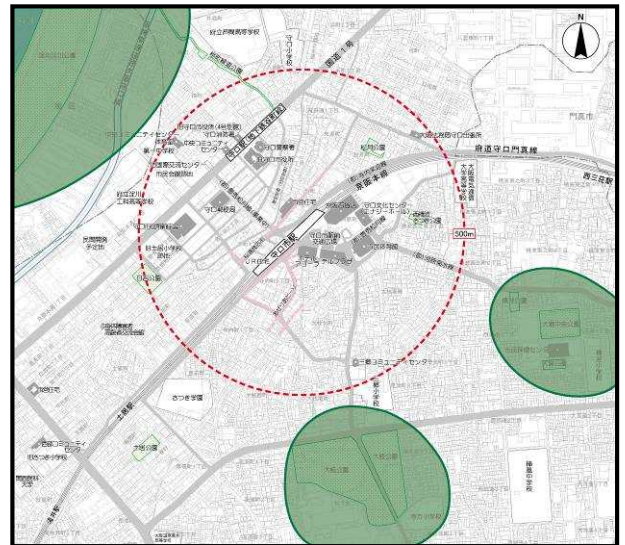
歴史文化ゾーンは、現況は、文禄堤などで高低差があり、ややもすると市街地の歩行者動線を分断する要因ともなっていますが、市の歴史を継承し、「守口の個性」をつくりあげていくための重要なエリアです。

今後は、文禄堤（京街道）の高低差をメリットとして活かすとともに、歴史文化資源として積極的に整備活用しながら「守口ならではの」という「らしさ」を演出していきます。



6 周辺ゾーン

淀川河川公園、大枝公園、大宮中央公園などの都市公園を中心としたエリアについては、それぞれの立地環境を活かし、都市核中心部と連携させながら、健康、福祉、交流、うるおいなど、市民生活に新しい魅力を創出させていくゾーンとします。



●方向性

淀川河川公園を中心としたゾーンは「うるおい」と「環境」をテーマとし、本市の貴重な自然的資源であるという価値を再認識し、都市核とのつながりを強め、積極的に活用することで、都市核周辺については市全体の魅力を高めていきます。

大枝公園とその周辺のゾーンは「スポーツ」と「防災」をテーマとし、現在再整備中の大枝公園を中心とし、市民のスポーツ振興や防災性向上などに寄与するまちづくりを進めていきます。

市民保健センターとその周辺ゾーンは、「健康」や「福祉」、「交流」をテーマとし、大宮中央公園などを含めて、市民の健康増進を高めていきます。



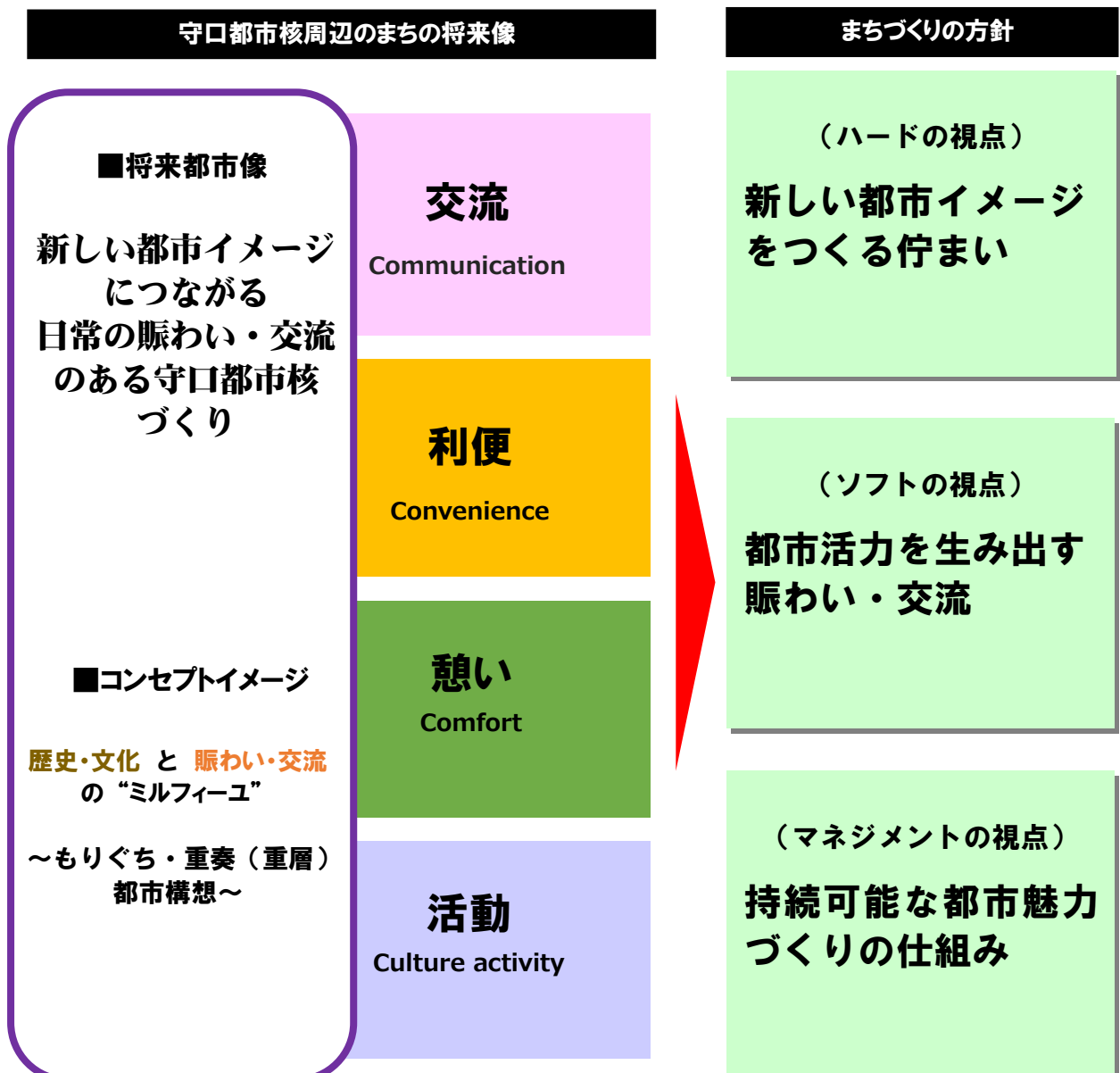
5. まちづくりの方針

3つの視点

「まちをつくる」(ハード)から「まちを使う」(ソフト)
さらには「まちを育てる」(マネジメント)の視点を加える

前述に示す「まちの将来像」を実現させていくためには、基盤を整備したり、建物を建てたりする「ハードの視点」(まちをつくる)だけではなく、できる場所で集まってイベントしたり、くつろいだりする「ソフトの視点」(まちを使う)、さらには、それらを一過性のものでなく、持続的に継続させていくためのルールづくりや組織づくりなど、仕組みをつくっていく「マネジメントの視点」(まちを育てる)が重要です。

まちづくりの方針として、以下の3つが必要になると考えます。



方針 1

～ハードの視点より～
新しい都市イメージをつくる佇まい

都市イメージ

**守口の玄関口に相応しい
 「新しい都市イメージ」創出に寄与する都市基盤を整え、
 「守口都市格」を向上させる**

●市の玄関口にふさわしい都市基盤の整備と景観形成

- ・ 駅周辺及びシンボルロード（都市計画道路豊秀松月線）沿いについては、市の玄関口として相応しい都市基盤の整備と景観形成を進めます。



●新しい都市イメージを創出する都市機能の導入

- ・ これからの守口の「新しい都市イメージ」の創出に向けて、都市基盤整備と併せて、もりぐちならではの新しいライフスタイルを創出するような魅力的な都市機能を誘導していきます。



方針 2

～ソフトの視点より～
都市活力を生み出す賑わい・交流

都市活力

**守口都市核周辺の賑わいと交流、回遊を拡げ
 周辺に波及させていくとともに、
 都市に活力をもたらす活気をつくりだす**

● **まちなかの日常の賑わい創出**

- まちの賑わい創出にあたり、既存の広場など公的空間を活用して、イベント時に加えて、日常の賑わいをつくるとともに、それを周辺にも拡げていきます。



● **回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成**

- 回遊性の向上に向けて、歩行者空間の充実化、さらにそれをネットワーク化することで、誰にとっても歩きやすくわかりやすい、歩いて楽しいまちづくりを進めます。



方針 3

～マネジメントの視点より～
持続可能な都市魅力づくりの仕組み

都市魅力

**もりぐち固有の資源を最大限に活用し、
 都市の魅力の向上と発信を進め、
 多様な主体との連携により持続的に発展していく**

● **地域資源を活かしたまちの魅力向上と発信**

- まちの魅力向上にあたり、文祿堤をはじめとした歴史的資源、淀川河川公園をはじめとしたうるおい資源など、守口の個性を高めるような資源を積極的に整備活用し、訪れたひとがその魅力を体感でき、住む人が愛着を持てるような取り組みを進めます。



● **地域協働による魅力向上と持続的な発展**

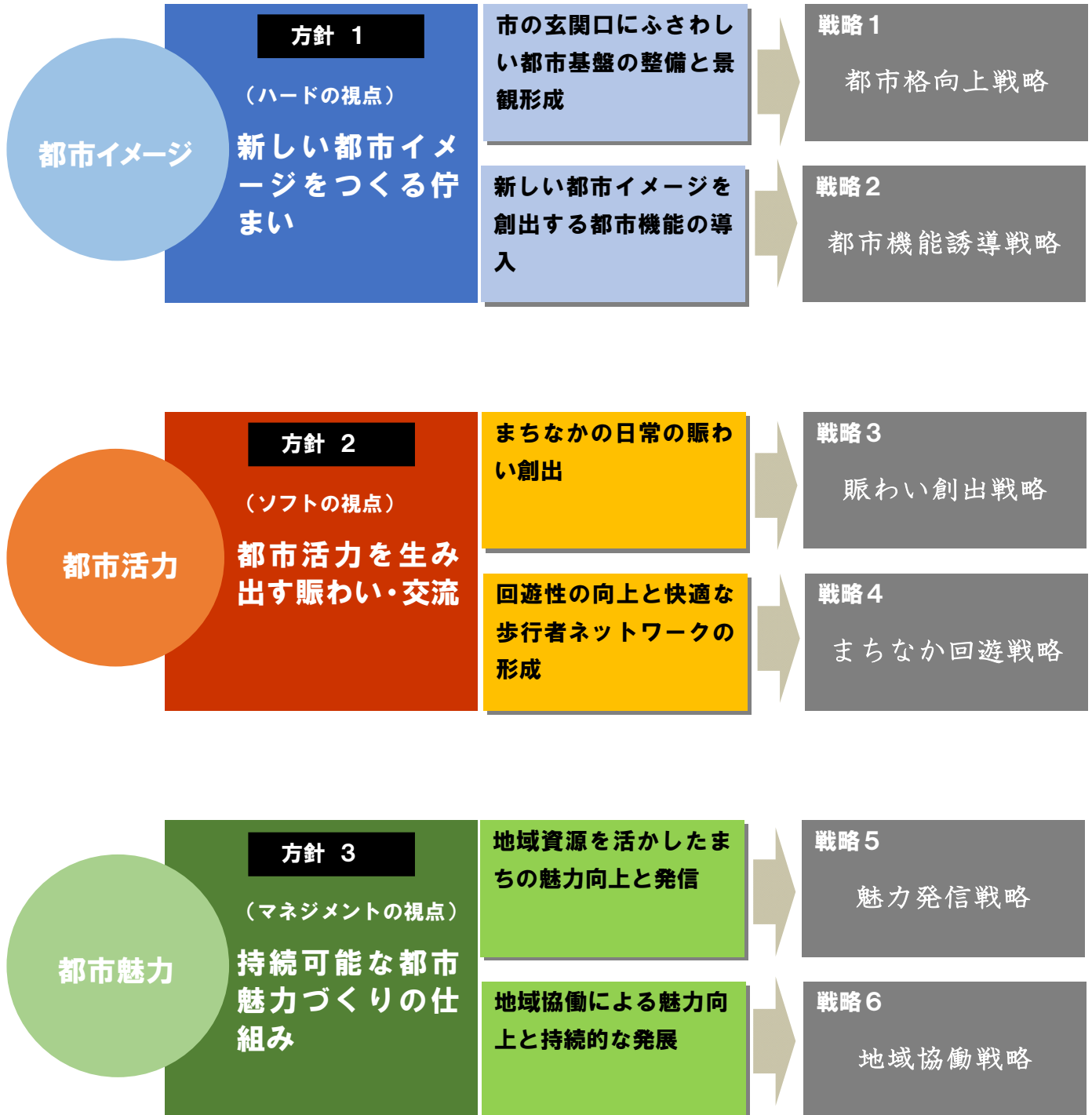
- まちの持続的な発展にあたり、地域や事業者、各種団体、行政などが一緒になって、まちの魅力向上や維持にあたっての課題を共有し、そのうえで、それぞれが自分たちにできること認識理解して、お互いに協力し、継続した取り組みを進められるような仕組みづくりを進めます。



6. まちづくり戦略

5章で示す「まちづくりの方針」を実現させていくために、以下の6つの「まちづくり戦略」を設定し、具体的な取組みを展開させていきます。

次頁以降にそれぞれの戦略に基づく取組み例と方策イメージを示します。



戦略 1 都市格向上戦略

●背景とねらい

～市の玄関口にふさわしい都市基盤の整備と景観形成に向けて～

守口都市核周辺には、京阪守口市駅、地下鉄守口駅の2駅があり、交通の利便性が高いことが評価されていますが、それぞれの繋がりはあまりないうえに、とくに京阪守口市駅北側で、みどりやオープンスペースなどが不足し、駅前らしさが感じられないほか、シンボルロードが未整備など、市の玄関口としての佇まいが課題となっています。

そこで、「市の玄関口にふさわしい都市基盤整備と景観形成」に向けて、駅前については、守口都市格を向上させる駅前らしい空間づくりを進め、豊秀松月線については、新しい都市イメージにふさわしいシンボルロードとしての整備を推進し、玄関口として相応しい佇まいや風格をつくることにより、市全体の「都市格」を向上させていくことを目指します。

●実現に向けた取組み

1 守口の都市格を向上させる駅前空間づくり

- ・京阪守口市駅東口
駅前ステージの活用促進に向けた整備をはじめ、日常、イベント時を含めた賑わい創出に向けた人中心の空間づくりを進めます。
- ・京阪守口市駅西口
関係機関と協議調整を進め、既存施設の更新とそれに併せた駅前ゆとり空間の創出に向けた取り組みを進めます。
- ・地下鉄守口駅
旧市役所跡地の活用と連携した守口都市核の新たな顔づくりを進めます。



玄関口としての駅前空間
(JR 博多駅)

2 新しい都市イメージにふさわしいシンボルロードの整備

- ・豊秀松月線
シンボルロードに相応しい安全で快適な歩行者空間整備と沿道とも連携した賑わいとゆとりある街路景観の形成に取り組みます。



シンボルロードと快適な歩行者空間
(表参道)

3 人中心の空間形成

- ・公共交通を優先し、自動車交通の適正制御や駐輪場の再配置の検討など人中心の空間形成に向けた取り組みを進めます。

戦略2 都市機能誘導戦略

●背景とねらい

～新しい都市イメージを創出する都市機能の導入に向けて～

守口都市核周辺は、「住宅のまち」としてのイメージが定着していますが、その一方では、「賑わいや活気がない」「治安が悪い」「みどりが少ない」などの“負のイメージ”があります。

そこで、「新しい都市イメージを創出する都市機能の導入」に向けて、守口の暮らしの魅力を向上させる新しいライフスタイルを創出するような魅力的な都市機能を誘導します。その際には、公共施設跡地等を積極的に活用するとともに、民間活力を導入し様々な視点を組み入れつつ、また、単一敷地だけではなく、周辺と一体となった整備の可能性も検討し、その土地のポテンシャルを最大限に活かした魅力溢れる都市機能の導入を進めます。

●実現に向けた取組み

1 多様で魅力的な都市機能の適切な誘導

- ・都市型ライフスタイルを体感でき、守口市に住むことの付加価値を高めるにあたり必要な、居住機能や生活サービス機能に加え、都市生活に活力と潤いを与えるような機能も含め、立地適正化計画とも連動しながら、多様な魅力機能の誘導を図ります。

2 跡地を含む公的資源を積極的に活用した都市機能誘導

- ・新都市生活創出ゾーンや賑わい交流ゾーンをはじめ、守口都市核周辺には、公共施設跡地や更新時期が迫る多数の公益施設が存在することから、公共施設等総合管理計画とも連動しながら、それらの公的資源を積極的に活用して都市機能を誘導します。

3 民間活力導入を含む多様な事業手法の検討

- ・事業手法については、民間活力導入（PPP等）を念頭に、公有地活用方策（売却・定期借地等）についても、幅広く検討するとともに、また、周辺敷地と一体となった面整備や公共施設の玉突き整備等の可能性も含めて、土地のポテンシャルを最大限に活用できるような事業手法を検討します。



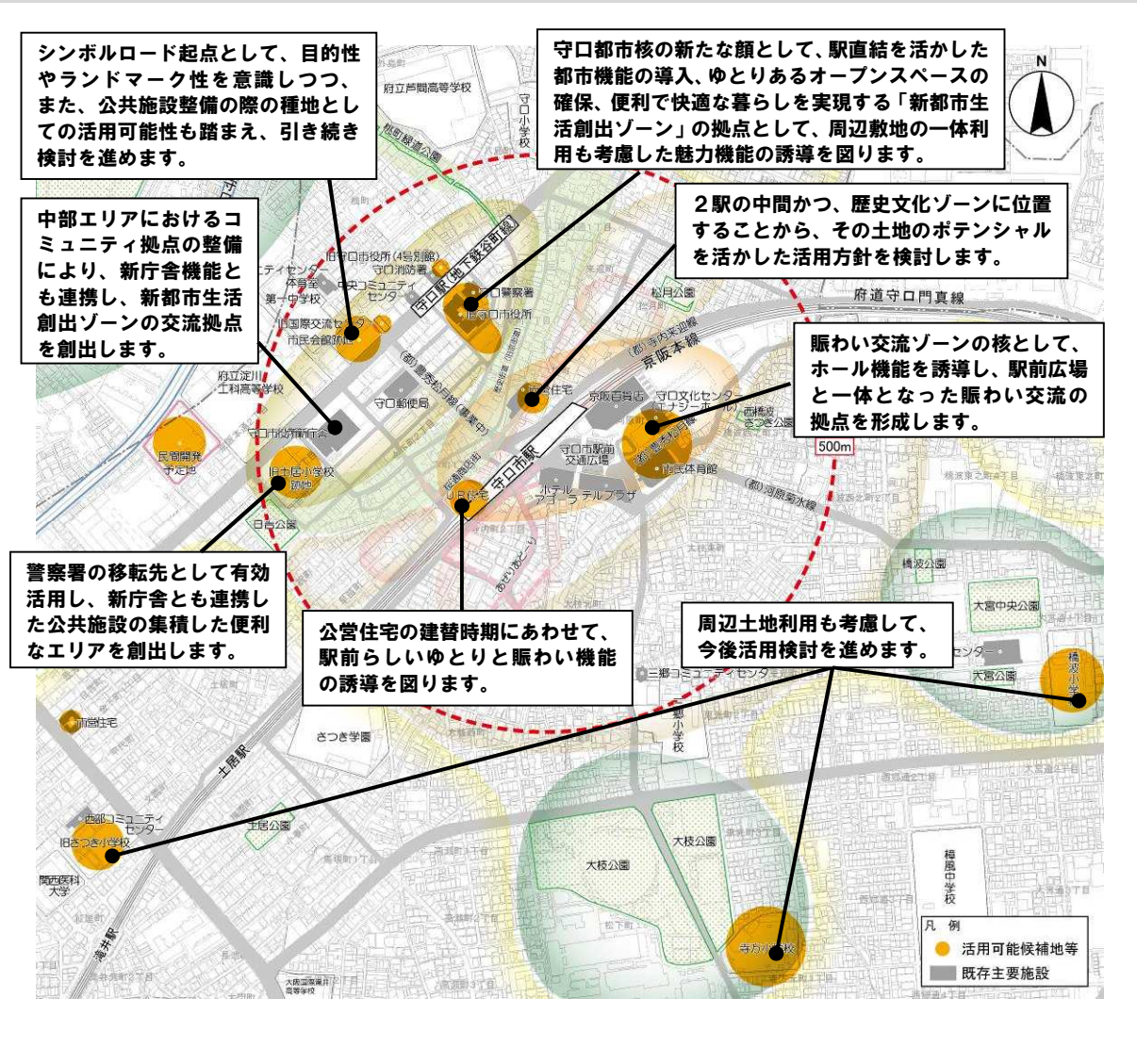
多様な都市機能を導入した再開発
(高松市)



広場に面したカフェレストラン
(虎ノ門ヒルズ)

戦略イメージ

新しい都市イメージを創出する都市機能の導入に向けた取り組みイメージ



戦略3 賑わい創出戦略

●背景とねらい

～まちなかの日常の賑わい創出に向けて～

守口都市核周辺は、「賑わいや活気がない」というイメージがあり、時間をつぶせる場所や、まちなかに人が集まったり活動をしったりできる場所が少ない状況です。また、守口市駅前広場については、イベント開催時には多数の人で賑わっていますが、普段は人が少なく駅前らしい賑わいを感じられず、駅前のオープンスペースを十分に活用できていません。

そこで、「まちなかの日常の賑わい創出」に向けて、まちなかの隙間（多孔質空間）の活用や、守口市駅前広場の日常時も含めた利活用の促進等を進めることで、日常の賑わい創出し、界隈性があり、親しみやすい“ヒューマンスケール”の賑わい・交流のまちづくりを目指します。

●実現に向けた取組み

1 多孔質空間を活用した賑わい創出

- ・新たな施設や機能の導入が行われる際は、敷地内に一定のオープンスペースを確保するよう誘導するほか、民有地を含めた既存の空き地や駐車場、店舗の店先などの空間（多孔質空間）についても、まちなかの賑わい交流スポットの候補地として、その活用促進に向けた仕組みづくりを進めます。



カナディアンスクウェアでのイベント

2 守口市駅前広場の日常時の利活用促進

- ・普段から人が集い、憩えるように、緑陰の創出やオープンカフェの実施、日常的イベントの開催等も検討し、駅前にいけば、いつもなにかやっているというイメージがわくような取り組みを進めます。

3 空き家等を活用した地域密着型店舗等の導入推進

- ・昨今、古民家等を活用した魅力的な店舗が増えてきていることもあり、それらをより一層促進するほか、既存建物（空きビル、空店舗）の活用したチャレンジショップの導入などに向けた取り組みを進めます。



空きビルを活用した
チャレンジショップ
(周南市)

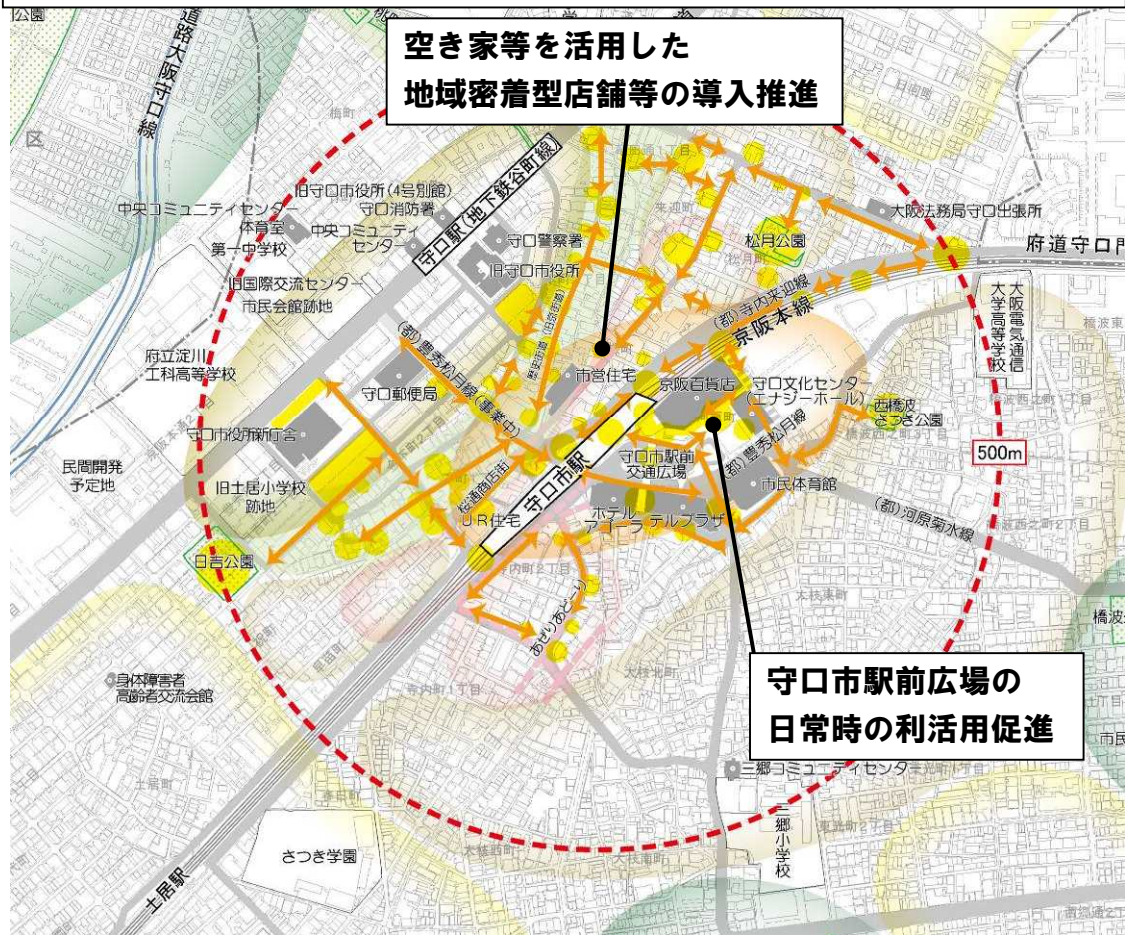
戦略イメージ

まちなかの日常の賑わい創出に向けた取り組みイメージ



多孔質空間を活用した賑わい創出

※多孔質空間とは：ここでは、広場、空閑地や建物の軒下などの空間をいい、イベントなどに活用できる空間をいいます。



戦略4 まちなか回遊戦略

●背景とねらい

～回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成に向けて～

守口都市核周辺では、国道1号や京阪本線は都市の骨格軸、文祿堤は地域固有の資源である一方で、その構造上の特性から空間を分断している状況があります。また、守口都市核周辺には公共施設等が多数立地しており、様々な方が利用していますが、それら施設間をつなぐ要素が少なく、まち全体として回遊性が乏しくなっています。

そこで、「回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成」に向けて、歩道やまちかどに人が憩えて溜まれる空間をつくったり、高低差を逆手に利用し魅力空間を創出したり、低層部への店舗誘導等によるまちなみの連続化や、サイン整備にも併せて取り組むことで、自然と歩きたくなる楽しい歩行者空間をつくり、それを周辺部にも拡げていきます。

●実現に向けた取組み

1 歩いて楽しい快適な歩行者空間の形成

- ・多孔質空間の活用と連携しつつ、歩道やまちかどに、人が憩える空間や溜まれる空間を創出し、また、その空間を活用するための仕組みづくりを進めます。
- ・文祿堤の高低差を活かし、既存の坂道の整備活用や、高さを活かした視点場の整備などを進めます。
- ・歩行者優先道路化を視野に入れた社会実験の実施等、快適な歩行者空間の形成と活用促進を進めます。



歩道を活用したオープンカフェ
(那覇市国際通り)

2 建物低層部への店舗等の誘導によるまちなみの連続化

- ・公開空地による歩行者空間を確保や、建物低層部へ、カフェや物販をはじめとする賑わい、憩い、交流機能等を積極的に誘導するような景観計画や地区計画等のルールづくりを行います。



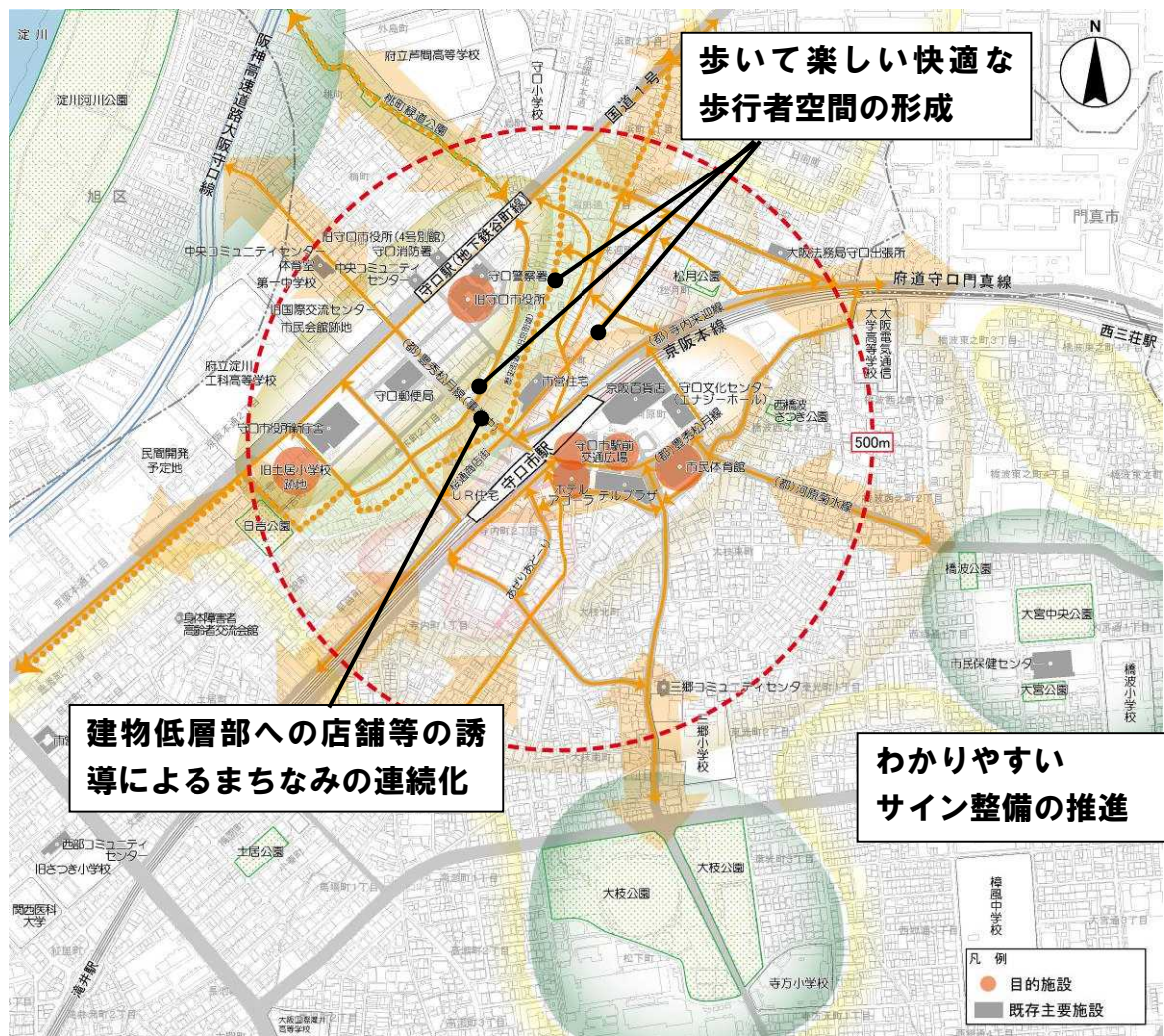
歩行者優先道路化に向けた
交通社会実験
(周南市銀座通)

3 わかりやすいサイン整備の推進

- ・都市核周辺のゾーンも含め、様々な施設をつなぎ、まちを初めて訪れたひとでも自然と回遊できるような効果的なサイン整備を進めます。

戦略イメージ

回遊性の向上と快適な歩行者ネットワークの形成に向けた取り組みイメージ



戦略5 魅力発信戦略

●背景とねらい

～地域資源を活かしたまちの魅力向上と発信に向けて～

守口都市核周辺には、「文禄堤」や「淀川河川公園」など、守口の個性を高めるような貴重な資源が多く存在しておりますが、案内や情報発信が少ないほか、これらの資源を体験する場が少ないなど、その整備活用が十分でないことから、住む人来る人ともに、それが魅力的なものであることを、十分認識できていない状況にあります。

そこで、「地域資源を活かしたまちの魅力向上と発信」に向けて、「文禄堤」や「淀川河川公園」については、資源を認識しやすいような整備を推進し、また、その魅力を体験しやすいような活用を促進することで、まちの魅力向上を図るとともに、加えて、地域と連携して、様々なツールを活用し、魅力発信を促進します。

●実現に向けた取組み

1 歴史的資源である「文禄堤」の整備活用の促進

- ・地域と各種団体、行政が価値認識を共有した上で、文禄堤を魅力資源として認識しやすいように必要な整備を行います。
- ・まち歩きはじめとした体験型の活動を促進し、また、沿道にカフェなど魅力店舗等を誘導するなど、楽しく資源に触れる機会を増やすことで、住む人が愛着を感じ、来る人が魅力を体感できるような取組みを進めます。



文禄堤(旧京街道)沿いの店舗

2 うるおい資源である「淀川河川公園」の利活用促進

- ・散歩や休日のレクリエーション活動の際、淀川までわかりやすくアクセスできるようなルートを整備するとともに、淀川の利用者が逆に都市核へ寄って帰りたいと思うような機能を誘導するなど、都市核と淀川河川公園の関係性強化を図ります。



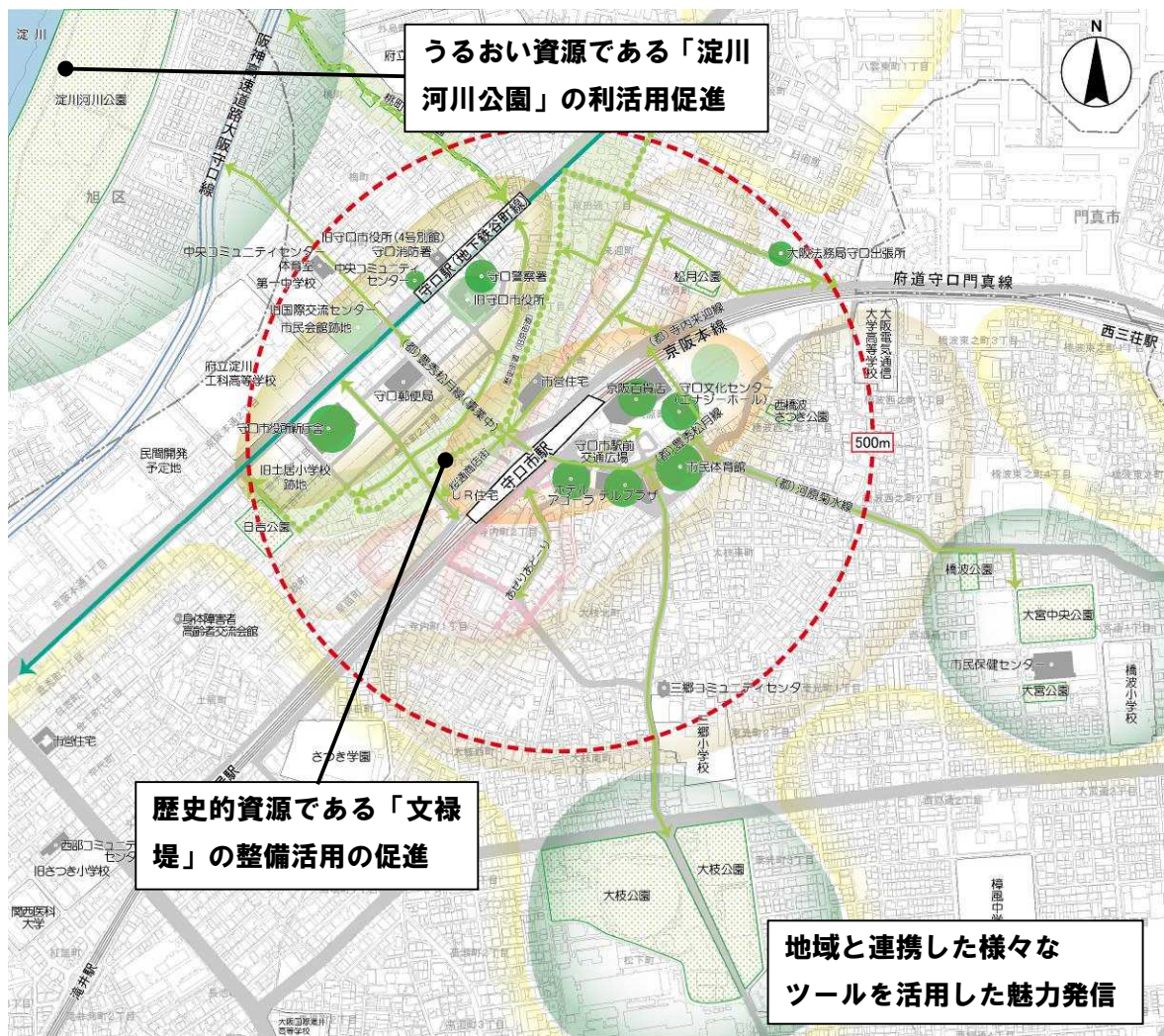
淀川

3 地域と連携した様々なツールを活用した魅力発信

- ・地域資源を積極的に活用した官民協働イベントの実施や情報発信（案内マップやその他ウェブ、SNS などの情報ツールを活用など）などを推進します。

戦略イメージ

地域資源を活かしたまちの魅力の向上と発信に向けた取り組みイメージ



戦略6 地域協働戦略

●背景とねらい

～地域協働による魅力向上と持続的な発展に向けて～

守口都市核周辺においては、駅前活性化委員会など企業や事業者を主体とした組織やイベント開催に関する各種団体が、多様な活動を行っています。今後は、これら既存組織に加え、都市核周辺の様々な関係者、地域、事業者、行政などが一緒になって、連携協力し、地域の魅力向上のための活動を行うことが必要です。

「地域協働による魅力向上と持続的な発展」に向けて、まず、「地域、事業者、行政」など各主体が課題認識の共有を行い、次に、課題に対応するルールづくりを進め、併せて、ルールに基づき、各主体が各々の役割を認識し、地域の魅力向上や持続的な発展に向けた各種活動を進める、エリアマネジメント型のまちづくりを目指します。

●実現に向けた取組み

1 地域の課題認識の共有に向けた場の創出

- まず、各主体が集まり、まち歩きをしたり意見交換を行ったりとすることで、地域の課題認識の共有に向けた場をつくる必要があります。そのきっかけを作るために関係機関等への働きかけを進めていきます。

2 地域の課題解決や魅力向上に向けたルールづくり

- 課題認識を共有したのちは、各主体が一緒になって、景観に関するルールづくりやガイドラインづくり、公共空間の維持管理のためのルール作り等を行えるよう、その関係性の構築を進めるとともに、ルール作りに関する手法等について検討を進めます。

3 エリアマネジメント組織の形成

- ルールづくりと併せて、沿道や広場の維持管理や緑化の推進など、様々なテーマについて地域で検討する「エリアマネジメント組織」の形成に向けた取組みを進めます。
- また、鉄道事業者や地元企業など、地域に密着した事業者との連携を図り、各種取組みを進めるための働きかけを行います。



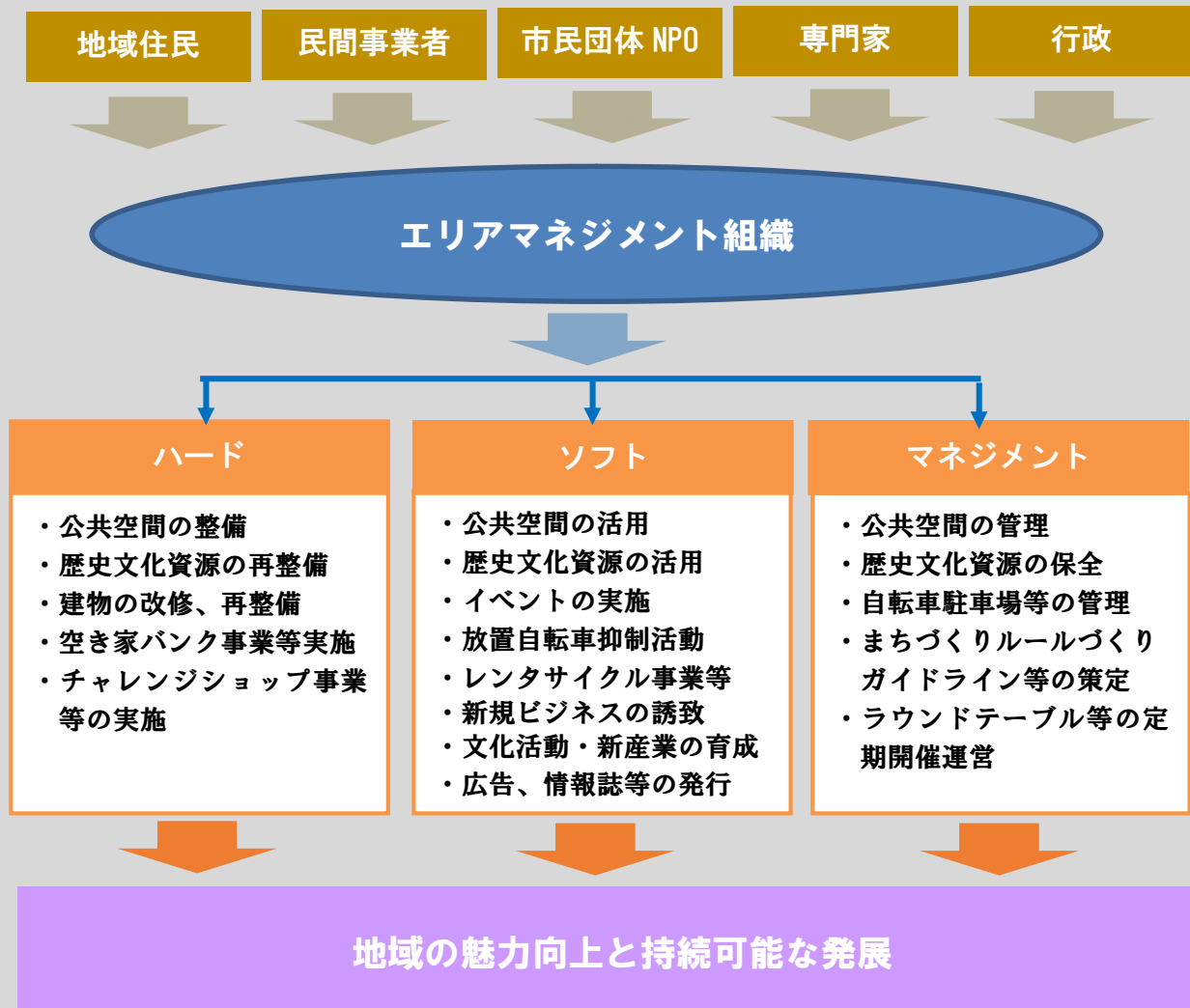
地域が主体となった緑化推進



地域が主体となった清掃活動

戦略イメージ

地域協働による魅力向上と持続的な発展に向けたエリアマネジメント組織の例



7. ビジョン実現に向けて

1 関係者間での将来イメージの共有と具体的な計画づくり

守口都市核周辺における将来都市ビジョンの実現に向けては、本ビジョンに示されたまちの将来像、まちづくりの方針、まちづくり戦略などについて、地域、事業者、行政などでイメージを共有し、関係者の合意形成を図り、民間活力の積極的な導入や地域のルールづくりを進めるなど、官民が協働して一体的なまちづくりを進めていく必要があります。

今後は、本ビジョンに基づき、より詳細に検討を行うべく、各々の事業をはじめ、守口都市核周辺のまちづくりを計画的に進めていくべく、「公有地活用方針」の策定、「地区計画」、「景観計画」「各種ガイドライン」等の具体的な計画について検討していきます。

2 エリアマネジメント組織の確立

守口都市核周辺、ひいては、守口市全体の魅力向上に向けては、都市核周辺を含むエリアを一体的にマネジメントしていくことが必要です。

そのため、地元の既存組織等が主体となったイベント活動などに加え、地区内施設等の管理運営や情報発信活動などを含め、都市核周辺を含むエリアを総合的にマネジメントしていく組織づくりを進めていきます。

3 市民全員のわがまち意識を育てていく取り組みの推進

守口都市核周辺のまちづくりについては、市民だれもが、まちを構成する一員として、“わがまち意識”、すなわち、主体的な意識と社会的責任をもってまちづくりに参加することが重要です。

本ビジョンでは、そのまちづくりのきっかけのひとつに、「エリアマネジメント組織の必要性」などをあげており、今後、こうした地域の活動を促進し、わがまち意識を育てていくための取り組みを進めます。

■ビジョン実現に向けたロードマップ

戦略		取組み	短期	中期	長期
ハードの視点	都市格向上戦略	守口の都市格を向上させる駅前空間づくり	[Blue arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
		新しい都市イメージにふさわしいシンボルロードの整備	[Blue arrow in short term, then squares in mid term]		
		人中心の空間形成	[Blue arrow in short term, then squares in mid term]		
	都市機能誘導戦略	魅力的な都市機能の適切な誘導	[Blue arrow from start to end of long term, then squares in long term]		
		跡地を含む公共施設を積極的に活用した都市機能誘導	[Blue arrow from start to end of long term, then squares in long term]		
		民間活力導入を含む多様な事業手法の検討	[Blue arrow from start to end of long term, then squares in long term]		
ソフトの視点	賑わい創出戦略	多孔質空間を活用した賑わい創出	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
		守口市駅前広場の日常時の利活用促進	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
		空き家等を活用した地域密着型店舗等の導入推進	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
	まちなか回遊戦略	歩いて楽しい快適な歩行者空間の形成	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
		建物低層部への店舗等の誘導によるまちなみの連続化	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid and long term]		
		わかりやすいサイン整備の推進	[Orange arrow from start to end of short term, then squares in mid term]		
マネジメントの視点	魅力発信戦略	歴史的資源である「文禄堤」の整備活用の促進	[Green arrow from start to end of long term]		
		うるおい資源である「淀川河川公園」の利活用促進	[Green arrow from start to end of long term]		
		地域と連携した様々なツールを活用した魅力発信	[Green arrow from start to end of long term]		
	地域協働戦略	地域の課題認識の共有に向けた場の創出	[Green arrow from start to end of long term]		
		地域の課題解決や魅力向上に向けたルールづくり	[Green arrow from start to end of long term]		
		エリアマネジメント組織の形成	[Green arrow from start to end of long term]		

〈資料編〉

1 上位計画

1 第五次守口市総合基本計画（H23.3）

(1) 将来都市像 「育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」

(2) 基本目標

- ① 学びとつながりを深め、豊かな心と生きる力が育つまち
- ② 一人ひとりの人権が尊重され、健康でいきいきと安心して暮らせるまち
- ③ 交通の便の良さを活かした、にぎわいと活力あふれるまち
- ④ 自然環境と調和し共生する安全・安心なまち

(3) 将来都市構造

① 都市核・都市軸に関する方針

京阪守口市駅・地下鉄守口駅周辺で、商業・業務系機能に加え、行政文化機能が集積する「守口都市核」においては、引き続き、市の玄関口に相応しい都市基盤の整備に努めるとともに、ユニバーサルデザインの推進にも取り組んでいきます。

大阪モノレール大日駅・地下鉄大日駅周辺で商業・業務・居住系機能が集積する「大日都市核」においては、市域圏と広域圏の交流拠点としてさらに魅力ある拠点の形成をめざします。

これら二つの都市核を貫く「守口都市軸」沿道では、土地の高度利用を促進するとともに、大阪府の方針に基づき、緑化を中心とする景観形成を図ります。また、大阪中央環状線や国道479号などの広域幹線道路を広域軸として位置づけ、沿道環境の改善を要請します。

② 地域核・地域軸に関する方針

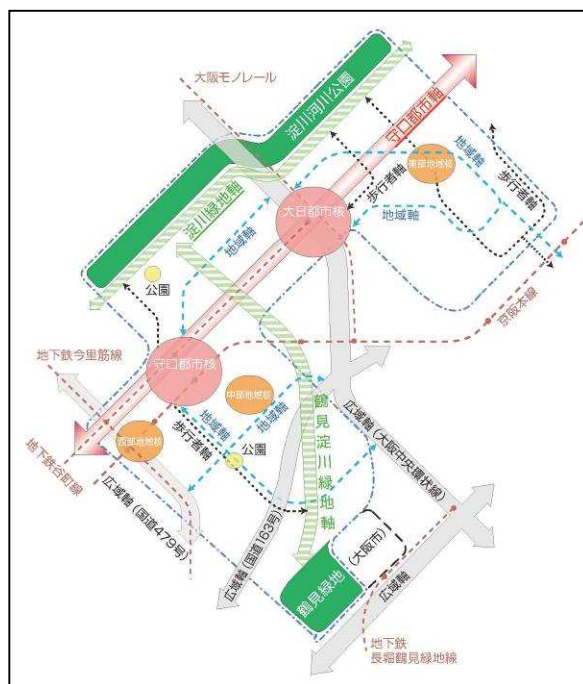
日常生活の拠点となる3つの地域核（西部地域核、中部地域核、東部地域核）においては、地域密着型の商業などの集積地として活性化を図り、それぞれの地域にふさわしいまちづくりを進めます。また、都市計画道路を主体として、都市軸や広域軸に連絡する道路を地域軸として整備を図ります。

③ 災害に強い都市基盤の整備に関する方針

近い将来に高い確率で発生が予想されている東南海・南海地震などに備え、災害に強いまちづくりを推進するため、市域全域について、道路や公園などの都市基盤の強化に努め、良好な住環境を創出していきます。また、防災機能を強化するため、都市軸や広域軸の整備を促進することにより、安全・安心な生活の実現をめざします。

④ 地域資源間の回遊性の向上に関する方針

本市には淀川河川公園、鶴見緑地、西三荘ゆとり道など緑と水に親しむ空間や多くの歴史的資源、文化的資源があります。地域軸や歩行者系の動線である歩行者軸によるネットワークを活かすことにより、これらの地域資源間の回遊性を高め、資源の魅力、地域の魅力を発信し、にぎわいを創出します。



2 守口市都市計画マスタープラン（H24.9）

(1) 将来都市像 「育つ・にぎわう・響きあう 人と心が集うまち 守口」

(2) 都市づくりの基本方針

- ①にぎわいと活力のある都市づくり
- ②快適な暮らしを実現する都市づくり
- ③人と環境にやさしい都市づくり
- ④災害に強い都市づくり
- ⑤市民との協働による都市づくり

(3) 将来都市構造

●拠点の形成方針

守口都市核

- ・京阪守口市駅・地下鉄守口市駅周辺の「守口都市核」は、本市の中心部として比較的早くに形成された拠点で、行政・文化機能に加え、商業・業務系機能が集積しています。「守口都市核」においては、施設の老朽化等にも対応しながら、引き続き、市の玄関口にふさわしい都市基盤の再整備・更新に努めるとともに、ユニバーサルデザイン化を推進します。

●都市軸の形成方針

1) 守口都市軸

【国道1号、京都守口線】

- ・二つの都市核を貫く「守口都市軸」は、交通軸であるだけでなく、本市の都市機能が集積する都市機能軸ともいえます。「守口都市軸」沿道では、土地の高度利用を促進するとともに、緑化を中心とする景観形成を図ります。

2) 地域軸

- ・府道北大日竜田線、豊秀松月線（未着手）等の都市計画道路や馬場菊水線、河原菊水線、府道八尾茨木線等の既存ストックを活用し、「守口都市軸」や「広域軸」に連絡する道路を市内の地域間の交流を支える「地域軸」とします。

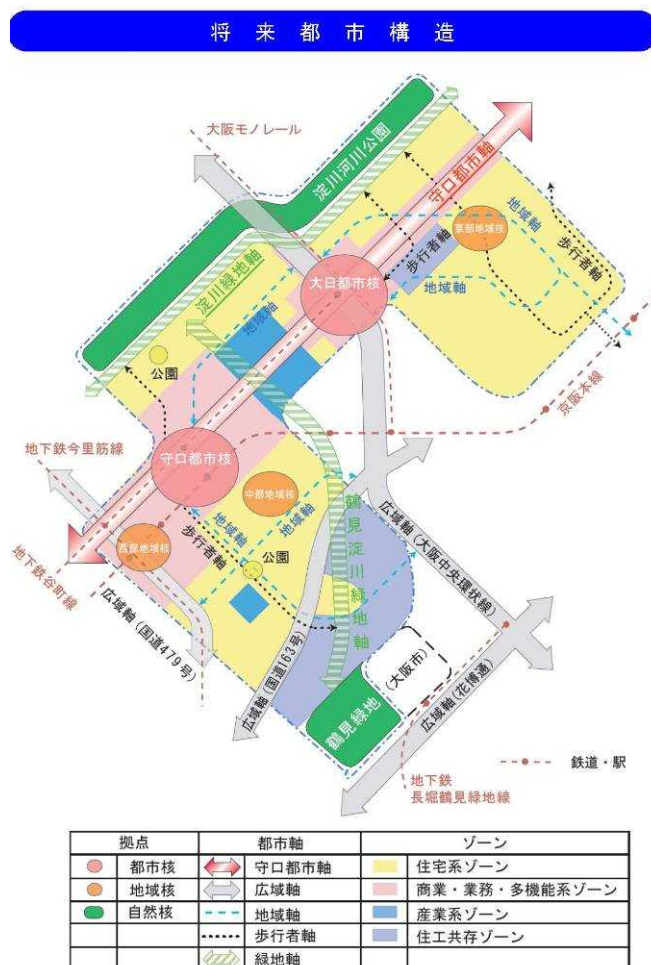
●ゾーン（土地利用の基本的な枠組み）の形成方針

1) 住宅系ゾーン

- ・「住宅系ゾーン」については、市街地の形成過程や道路等の基盤整備状況、建物の高さや構造など各地区の状況を考慮しながら、住宅を中心とするゾーンとして、それぞれ良好な居住環境の形成に努めます。

2) 商業・業務・多機能系ゾーン

- ・「商業・業務・多機能系ゾーン」については、その規模・立地・機能と都市の骨格となる都市核や都市軸を考慮しながら、行政・文化・商業・業務・都市型居住等の機能の集積した、中心地にふさわしい土地利用を誘導します。



3 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H28.3）

【守口創生の基本理念】

安心・快適・便利に子育てできるまち・守口

基本目標1 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる

[取組の基本的方向]

- ①結婚したいと思う若い世代の活動を支援する
- ②若い世代の妊娠・出産を支援する
- ③若い世代の子育てを支援する
- ④魅力ある学校教育を提供する
- ⑤安心して子どもを預けることができる保育サービスを提供する

基本目標2 安心・快適・便利に暮らせる大都市に隣接した居住地にする

[取組の基本的方向]

- ①若い世代が魅力を感じる住宅の供給促進と市内での住み替えを促進する
- ②若い世代が安心して暮らせる防犯まちづくりを強化する
- ③子育て親子が安心・快適に出かけられるまちづくりを推進する

基本目標3 様々なしごとの場を身近で提供する

[取組の基本的方向]

- ①企業のビジネスの発展を支援する
- ②新たな雇用を生み出す創業を支援する
- ③ワーク・ライフ・バランスをとりやすい職場を増やす
- ④若い世代の就業を支援する

基本目標4 守口市の魅力を高め・発信し、守口市を誇りに思う市民を増やす

[取組の基本的方向]

- ①守口市の魅力を発信する
- ②守口市の魅力に出会う機会をつくる
- ③守口市の元気拠点を整備する

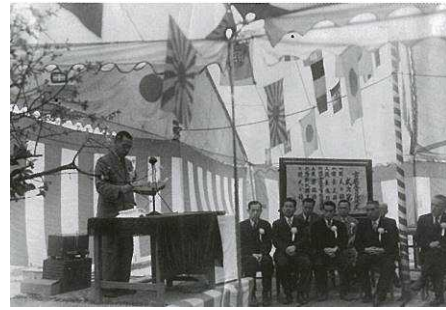
2 これまでの歩み

年表

年 代			出 来 事
1596	文禄 5	成長期	豊臣秀吉が文禄堤を整備 大坂と京都を結ぶ京街道をつくる
1616	元和 2		守口宿が伏見・淀・枚方とともに宿駅（57次）東海道に加わる
1881	明治 14		守口が大阪府に編入
1910	明治 43		京阪電車開通
1938	昭和 13		大阪市電京阪本通1丁目まで開通
1946	昭和 21		守口町・三郷町が合併し守口市となる
1951	昭和 26		守口市庁舎（旧庁舎）完成
1955	昭和 30	発展期	新国道1号線開通（八島～枚方間）
1966	昭和 41		市民会館完成
1969	昭和 44		大阪市電守口線廃止される
1971	昭和 46		中央公民館・教育文化会館完成
1977	昭和 52		大阪市営地下鉄谷町線守口まで開通
1982	昭和 57		京阪本線連続立体交差化事業完成
1983	昭和 58		大阪市営地下鉄谷町線大日まで延伸
1984	昭和 59		市民体育館開設
1985	昭和 60		河原地区第一種市街地再開発事業竣工
1990	平成 2		国際花と緑の博覧会開催（鶴見緑地）
1993	平成 5	成熟・変革期	エフエムもりぐち開局
1994	平成 6		国際交流センター・教育センター開設
1997	平成 9		新市民保健センター開館
1997	平成 9		大阪モノレール大日まで延伸
2006	平成 18		大日再整備 商業施設オープン
2006	平成 18		守口小学校と土居小学校が統合、土居小学校閉校
2014	平成 26		さつきホールもりぐち（市民会館）閉館
2016	平成 28		守口市庁舎移転 現在に至る



京阪守口市駅



(旧)庁舎完成式典(昭和26年)



国道1号八島交差点付近



桜通商店街(昭和28年)



守口市駅ロータリー(昭和39年)



第1回守口市市民まつり(昭和61年)



大日再整備(平成18年)



新市庁舎(平成28年)

3 アンケート調査結果

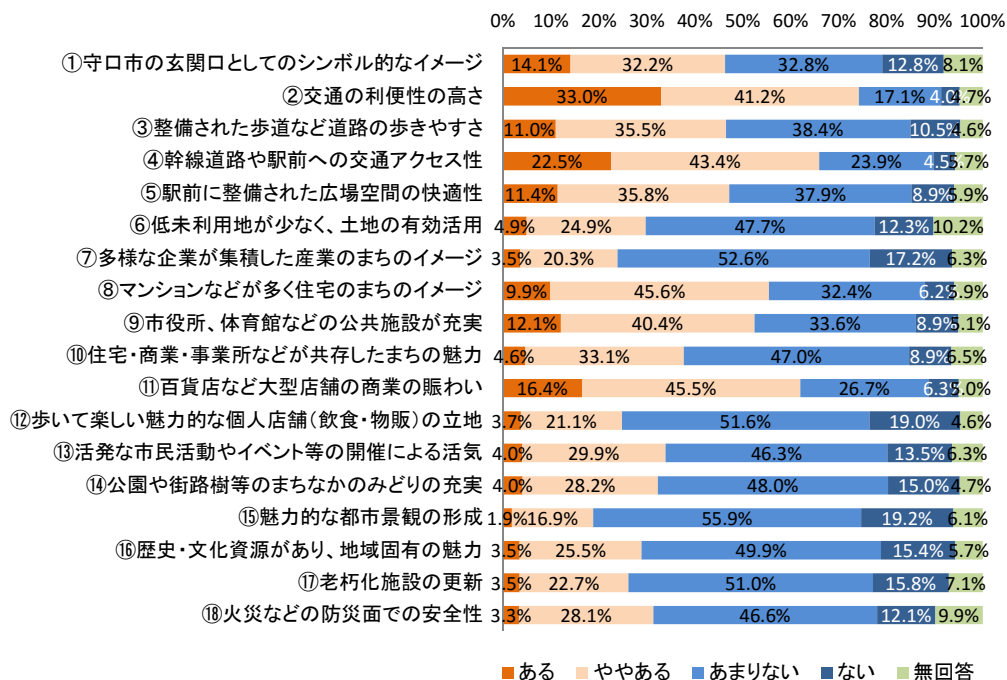
1 市民アンケート調査結果（その1）

- ・調査期間
平成 28 年 8 月 17 日（水）～8 月 31 日（水）
- ・調査対象
守口市に在住する 18 歳以上の市民を対象（無作為に 3,000 名を抽出）
- ・配布回収数
回収数：1, 176 件（回収率 39.2%）

（1）都市核周辺の現在のイメージ

守口都市核周辺のイメージは、「交通の利便性やアクセス性がよい」「大型店舗の商業の賑わいがある」「住宅のまちのイメージ」「公共施設が充実」などについて評価が高く、「魅力的な都市景観」「歩いて楽しい魅力的な個人店舗の立地」「多様な企業が集積した産業のまちのイメージ」などについて評価が低くなっています。

- 「ある」または「ややある」に回答されている割合が多い順に（割合は無回答除く）
 - ①交通の利便性の高さ（74.3%）
 - ③百貨店など大型店舗の商業の賑わい（61.9%）
 - ④マンションなどが多く住宅のまちのイメージ（55.5%）
 - ⑤市役所、体育館などの公共施設が充実（52.5%）
- 「ない」または「あまりない」に回答されている割合が多い順に（割合は無回答除く）
 - ①魅力的な都市景観の形成（75.0%）
 - ②歩いて楽しい魅力的な個人店舗（飲食・物販）の立地（70.6%）
 - ③多様な企業が集積した産業のまちのイメージ（69.9%）
 - ④老朽化施設の更新（66.7%）
 - ⑤歴史・文化資源があり、地域固有の魅力（65.3%）



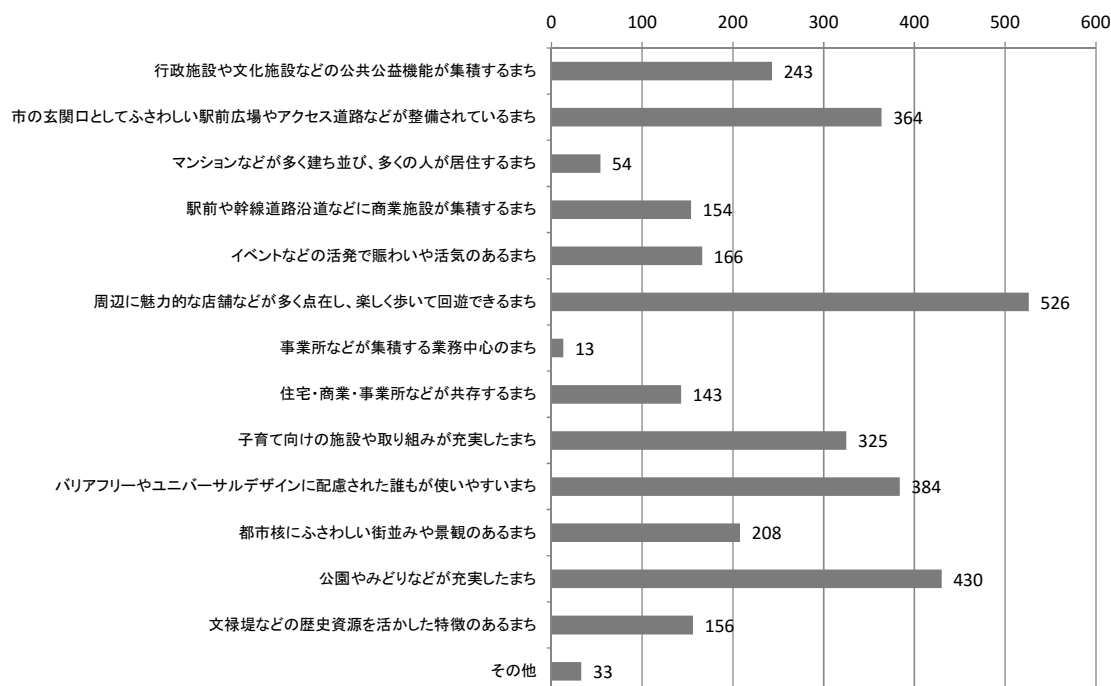
(2) 都市核周辺の将来イメージ

守口都市核周辺の目指すべく将来イメージは、「楽しく歩いて回遊できるまち」「公園やみどりなどが充実したまち」「バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮された誰もが使いやすいまち」などが多くなっています。

●目指していくべきイメージとしては、回答されている割合が多い順に

- ①周辺に魅力的な店舗などが多く点在し、楽しく歩いて回遊できるまち（526件、44.7%）
- ②公園やみどりなどが充実したまち（430件、36.6%）
- ③バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮された誰もが使いやすいまち（384件、32.7%）
- ④市の玄関口としてふさわしい駅前広場やアクセス道路などが整備されているまち（364件、31.0%）
- ⑤子育て向けの施設や取り組みが充実したまち（325件、27.6%）
- ⑥都市核にふさわしい街並みや景観のあるまち（208件、17.7%）

(N=1,176)



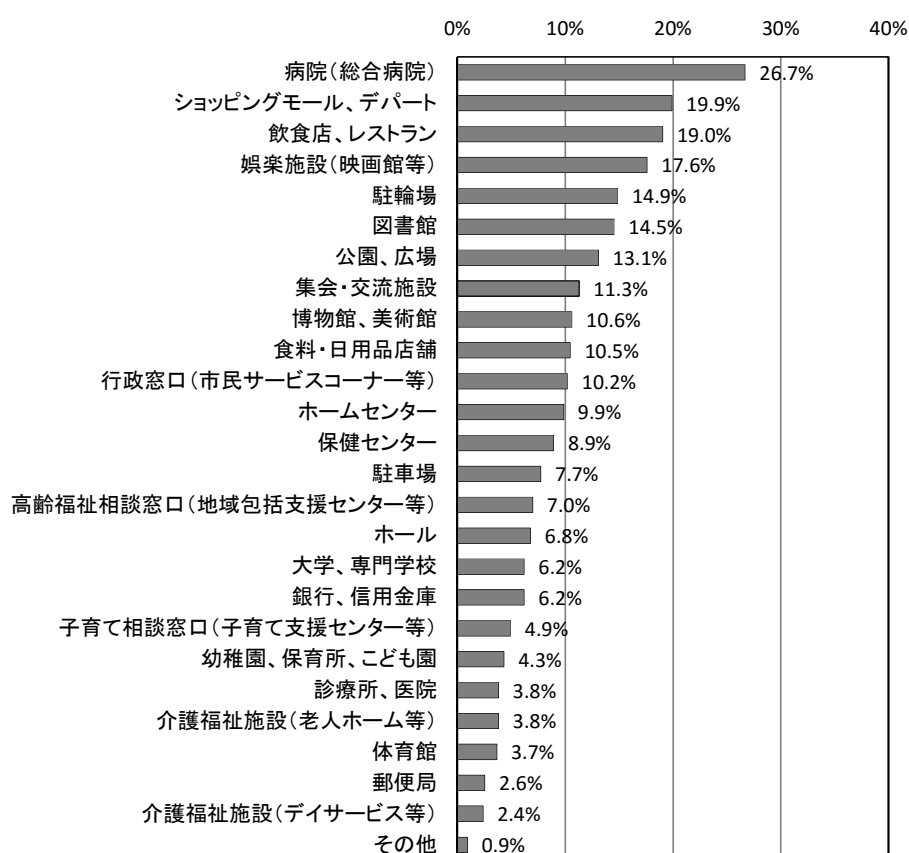
(3) 都市核周辺で充実させてほしい施設

守口都市核周辺で充実させてほしい施設は、「病院」「ショッピングモール、デパート」「飲食店、レストラン」などが多い。その他、年齢別にみると、若年者層には「図書館」、高齢者層には、「集会・交流施設」などが多くあがっています。

●上記の問いのうち、「守口都市核周辺」について充実させたい施設は、回答されている割合が多い順に

- ①病院（総合病院）（26.7%）
- ②ショッピングモール、デパート（19.9%）
- ③飲食店、レストラン（19.0%）
- ④娯楽施設（映画館等）（17.6%）
- ⑤駐輪場（14.9%）
- ⑥図書館（14.5%）

(N=1,176)



2 市民アンケート調査結果（その2）

今回実施したアンケート調査に加え、以下の既往アンケート調査結果を整理します。

- ① 守口市のまちづくりに関する市民アンケート（守口市第五次総合基本計画）
（平成 20 年度実施 18 歳以上の市民対象 7,000 名配布 回収率 49.1%）
- ② 守口市都市計画マスタープラン策定業務住民意向アンケート調査
（平成 22 年度 18 歳以上の市民対象 7,000 名配布 回収率 41.4%）
- ③ 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関するアンケート調査
（平成 27 年度 29～49 歳市民及び市外転居者 4,000 名 回収率 24.3%）

項目	内容	アンケート調査
○守口市のイメージ	「交通が便利」が最も多く、次いで「買い物など日常生活に便利」、「大阪市に近い」が多い。	③
○守口市への不満	転入者、転出者ともに「治安がよくない」、「自然が少ない」、「まちのイメージがよくない」が多い。	③
○市の特性・誇り	「高速道路や環状線・国道、地下鉄・モノレールなどの交通環境」が最も多く、次いで「大都市近郊の地理的条件」「ショッピングセンターや百貨店などの商業施設」が多い。	①
○将来像	「安全・安心」「健康・福祉」がとくに多く、「自然・環境」「子育て・教育」などが続いている。	①
○まちづくりで重視すべきこと	「高齢者、子ども、身体の不自由な人など誰もが歩きやすいまちづくり」「緑や景観に配慮したまちづくり」「地震・火災・洪水などに強いまちづくり」の順に多い。	②
○充実してほしい施設・サービス	「高齢者などの介護・福祉のための施設やサービス」「公園・広場などのオープンスペース」「食料品や日用品を販売する店舗」の順に多い。	②

4 各種関係団体等意見交換結果

各種関係団体等として、庁内会議のほか、都市核周辺の主な施設管理者、学識経験者、市議会にご協力いただき、守口都市核周辺の今後に向けて望ましいと考える方向性や具体的な方策などについて自由に意見交換を行いました。キーワードを中心にその概要を以下に整理します。

キーワード	主な意見
1. 都市イメージ・魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高級感のあるイメージを取り戻す ・いろんなものが混ざることによって魅力や楽しさが出る ・悪いイメージを払拭し、新しいイメージをつくっていくこと ・市内外それぞれ魅力を感じるよう、場所に依りて使い分けることも必要 ・下町というイメージを活かしていく ・まちをオシャレにして、若い女性が来やすく楽しめるように ・普段、日常が好まれるようなまちを目指すことが重要 ・ワクワク感やオシャレ感が感じられるまちであることが重要 ・女性目線で、行ってみたいと思えるようなまちを目指すべき
2. 賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前に滞在している人が少ない ・人中心のまちにしてほしい ・フラッと立ち寄れる施設 ・体験と交流でまちに付加価値が生まれる ・女性が楽しめて喜ぶまちを目指すという視点 ・駅前にも子どもがたまる場所 ・古い民家は安く賃貸ができるので、貸し手と借り手のつながりが重要 ・カフェや休憩できる場所を創出することが重要
3. 回遊性	<ul style="list-style-type: none"> ・一体的に“面”で活性化していく取り組み ・回遊性向上に向けての必要措置の検討が必要 ・低層部に商業機能を導入することで回遊性の向上が図れる ・都市核周辺エリアと駅前との連携が重要 ・淀川河川公園へのアクセス性の強化 ・歩いて楽しめるルートづくり ・永続的に賑わいを創出していくためには回遊性の向上が必要 ・歩いていろんなものを見て体験して回遊できるようなまち
4. 定住促進・ライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなライフスタイルの提案ができるのかがポイント ・ここにいて自慢できるというまちを目指すことが大切 ・守口の魅力をわかりやすく表現するフレーズが必要。「住んでよし 訪れてよし」 ・地域らしさや地域の生活感が感じられるような体験ができるコンテンツがあることが望ましい
5. 交通・バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーで自転車なども自由に回遊できる環境が必要 ・守口市駅前へのアクセス性の改善が必要 ・西口の再整備、市役所へのアクセス道路の機能向上が必要
6. 産業	<ul style="list-style-type: none"> ・産業、農業、サービス、歴史、医療など様々な分野でアピール ・空きスペース等を活用したサテライトオフィスなどは需要が見込める ・学生やベンチャー企業がチャレンジできる場所
7. 若い世代	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちのニーズを満たすことを考えていく必要がある ・子育て支援だけでなく、子ども支援で、「子ども向け施設」が必要 ・子どもたちの遊び場にカフェなどを併設し親同士も交流可能な場所
8. シビックプライド	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場機能集積は市の大きな財産 ・来訪者がまちに魅力を感じるとは、地域にとってはまちの誇りとなる
9. 都市景観・顔づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を出たときの風景はまちの印象を植え付ける非常に重要 ・まずは、街道沿いの街並みを美しくする取組みが有効 ・地下鉄守口駅側に力を入れるべき
10. ゾーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・都市核周辺のエリア間のつながりも重要 ・ゾーン分けというよりも全体でどうあるべきかが重要 ・ストーリー性やテーマ性が重要であり、全体でひとつのコンセプトのようなものがあつたほうがわかりやすい

キーワード	主な意見
11. 公共施設・駅前空間	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が来街できるような空間に ・施設間を行き来できるような仕組みづくり ・駅前広場を駐輪場や人中心の空間にあてるべき ・駅前にはゆったりした緑空間も必要 ・駅北側も賑わいを創出することが必要 ・道路休憩施設は、誰もが使いやすい施設となるように
12. 守口市駅西口	<ul style="list-style-type: none"> ・西口には、周辺を含めたエリアの再開発等を考えていく必要がある ・市役所移転が西口周辺の再生に取り組むにはよいタイミング
13. シンボルロード (豊秀松月線)	<ul style="list-style-type: none"> ・道が広がれば歩きやすくなるし、南北がつながることに期待 ・まちを縦につなぎ、歩行者通行空間の創出の観点からも非常に重要
14. 緑・オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりが感じられる遊歩道が連続的に整備されていれば、まちの魅力になる ・有機的にネットワークするグリーンインフラの構築が重要 ・桃町緑道公園の整備活用 ・周辺と一体となったゆとりある空間整備が重要
15. 施設間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で連携してやることで大きな魅力が生まれる ・点で考えるのではなく、他との連携やつながりを意識していくこと
16. 導入機能・跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンのカフェがあればよい ・建築物とオープンスペース、ひとを一体で考えて整備を検討すること ・既存の配置にとらわれず、長期的な施設更新も見据えて検討 ・跡地利用については、単体施設ではなく、複合施設がよい ・こどもたちが遊べる場所 ・ついでにいこうと思うような施設 ・若者たちも訪れるような施設 ・時間消費型のついでによりたいと思えるような施設が必要 ・お茶をできる場所として若い世代でも入りやすいカフェ ・ファミリー世代や若い世代も楽しめる多種多様な遊戯施設等
17. 公共施設の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間がうまくタイアップする仕組みや工夫が必要 ・バスロータリーの配置転換や人の広場などの検討も重要 ・公営住宅は今後のあり方や改修方針を考え周辺土地と併せた更新が必要
18. 地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と新しいまちが融合することが大切 ・当該地域の風格が何から形成されているかを読み解くことが大切 ・歴史資源を学習できる場所として、文化博物館などが文禄堤近くにあるとよい ・若い人や女性も気軽に入れ、楽しめるようなお店などがあればよい ・郷土愛をいかに高めるかという視点で教育が重要 ・淀川という大規模緑地を活用しない手はない
19. 文禄堤・京街道	<ul style="list-style-type: none"> ・文禄堤をどうしていくかがポイント ・まちの成り立ちにも係わる特徴的な要素 ・歴史的資源に気づききっかけをつくること ・街道の今をどう思い、どう活かすかが大切 ・街道の特性上、近隣市町村や府との連携が非常に重要 ・淀川との関係性を見直し、舟運の再生等も併せて取り組むことが大切 ・一定間隔で視線の抜けなど空間整備をすることで魅力的な景観形成が生まれる ・わくわくしながら体験をすることで、まちへの愛着などにつなげていく ・外国人の方にも楽しんでいただける整備や仕掛けづくり ・高低差を生かした利活用が有効（例えば、灯ろうを階段沿いにならべる） ・保全するのであれば、景観条例等の措置など何らかの対策が必要 ・定期的なイベントを実施し、管理運営の仕組みも併せて構築するのが望ましい
20. イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントを実施する場所の問題 ・駅前での定期的な催しを継続的に実施していく ・駅前に行けばなにかやっているというイメージをもってもらう ・外からも来てもらう広域の視点からイベント
21. 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・マップを作成するなど、駅周辺の情報を網羅した情報提供が重要 ・外国人向け観光サイトや SNS 等の活用 ・資源をいかに再認識し、それを体験できるように発信していくか ・駅をおりてすぐ、もしくは駅で、周辺の案内や PR をするべき
22. 地域協働	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で地域毎に様々なものを出し、守口としてひとつのものをつくる ・コミュニティ形成が推進されるような場の創出等が必要 ・大規模店舗と商店街などの小規模店舗がうまく共存すること

5 旧市役所跡地周辺導入機能イメージ（案）

※本資料はあくまでもイメージであり、実際とは異なります。

立地評価・課題等

- 交通の利便性が非常に高い
- 近年マンション供給が進み、「住宅都市」のイメージが強くなってきている
- オープンスペースが不足している
- 駅前であるが駅前らしさを感じられない
- 文禄堤などの歴史的資源の活用が課題

導入機能・整備の考え方

- 地下鉄守口駅直結を活かした機能配置
- 地下鉄から地上へ出た際のホスピタリティ空間の整備
- みどり・憩い空間の整備
- 新しいライフスタイルを創出する魅力機能の導入
- 文禄堤方面へのまちの広がりを意識した敷地計画

【目標】

守口都市核の新たな顔として、駅直結を活かした都市機能の導入、ゆとりあるオープンスペースを確保し、便利で快適な暮らしを実現する「新都市生活創出ゾーン」の拠点を形成する

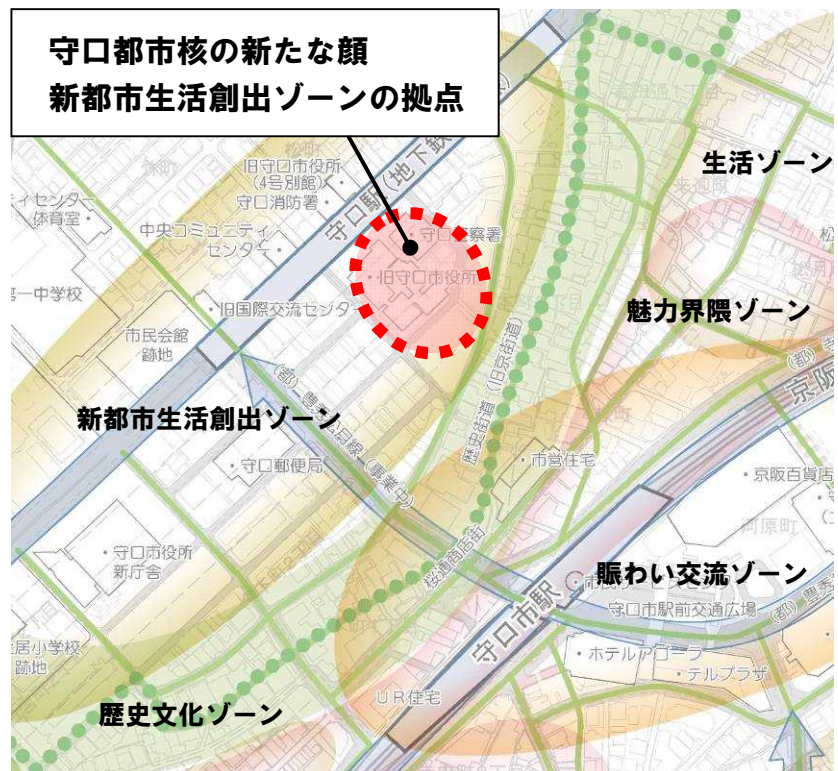
	駅チカ居住	都市利便	おもてなし	憩い	交通便利
導入機能のイメージ（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・駅直結型の中高層住居 ・駅前託児所 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市型スーパー ・飲食店 ・大型書店、CDショップ ・駅直結ホテル 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンカフェ ・サンクンガーデン ・多目的広場 	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場 ・緑陰空間 ・スパ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄守口駅前広場 ・地下駐車場 ・地下駐輪場



駅に接続するサンクンガーデンのイメージ



新しいライフスタイルを創出する魅力的な都市利便施設導入のイメージ



守口都市核の新たな顔
新都市生活創出ゾーンの拠点

守口都市核周辺における将来都市ビジョン

発行 守口市 都市整備部 都市計画課
〒570-8666
大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号
TEL 06-6992-1685
FAX 06-6992-1303
